

コマツ 2017年度 決算説明会

2018年4月26日(木)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO

大橋 徹二

執行役員CFO

堀越 健

執行役員経営管理部長

今吉 琢也

I. 2017年度 決算の概要 <P4-P12>

- P4-5 : 2017年度の概況・セグメント売上高と利益
- P6-7 : <建設機械・車両> 2017年度の状況
- P8 : <リテールファイナンス> 2017年度の状況
- P9 : <産機事業他> 2017年度の状況
- P10 : 連結貸借対照表
- P11-12 : 中期経営計画の進捗状況

II. 2018年度の業績見通し <P14-P31>

- P14-15 : 2018年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
- P16-19 : <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し・KMCの業績概況
- P20 : <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
- P21 : <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し
- P22-27 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
- P28-29 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
- P30 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高の見通し
- P31 : 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

参考資料 <P33-P43>

- P33-37 : 四半期毎の状況
- P38-40 : BBレシオ〔受注／売上指数(6ヶ月)〕
- P41-43 : 2017年度第4四半期(1月-3月)の状況

I . 2017年度の決算概要

- ・ 連結売上高は前年比+38.7%増収の2兆5,011億円。
- ・ 営業利益は前年比+56.0%増益の2,715億円。売上高営業利益率は同+1.2ポイント増の10.9%。
- ・ 純利益は前年比+73.2%増益の1,964億円。

金額単位：億円	2016年度	2017年度(10月公表値)		2017年度			前年比(C-A)		
	(A) ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	(B) ¥108.0/USD ¥124.4/EUR ¥16.0/RMB	従来コマツ *1	KMC	(C) ¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	25,011	21,832	3,178	+6,981	+38.7%
セグメント利益(▲損失)	1,765	2,360	2,560	*2 ▲200	3,029	3,154	*2 ▲124	+1,263	+71.6%
その他の営業収益(▲費用)	▲24	▲200	▲200	-	▲313	▲313	▲0	▲289	-
営業利益(▲損失)	1,740	2,160	2,360	*2 ▲200	2,715	2,840	*2 ▲124	+974	+56.0%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.7%	9.3%	11.6%	▲6.9%	10.9%	13.0%	▲3.9%	+1.2ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲76	210			202			+278	-
税引前純利益	1,664	2,370			2,918			+1,253	+75.3%
純利益*3	1,133	1,590			1,964			+830	+73.2%
ROE	7.3%	10.1%			12.1%			+4.8ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.18	-			0.40			+0.22ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	72円			84円			+26円	
連結配当性向	48.2%	42.7%			40.3%				

※ PPAはPurchase Price Allocation
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略。
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

	17年度(10月公表値)	17年度
PPAによる償却費 ※	▲400億円	▲402億円
統合費用ほか	▲60億円	▲75億円
合計	▲460億円	▲478億円

2017年度の各セグメント売上高と利益

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比+44.7%増収の2兆2,809億円。セグメント利益は前年比+70.7%増益の2,759億円。セグメント利益率は+1.8ポイント改善し 12.1%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比+22.8%増収の603億円。セグメント利益は前年比+191.1%増益の129億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比▲2.9%減収の1,854億円。セグメント利益は前年比+16.0%増益の144億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

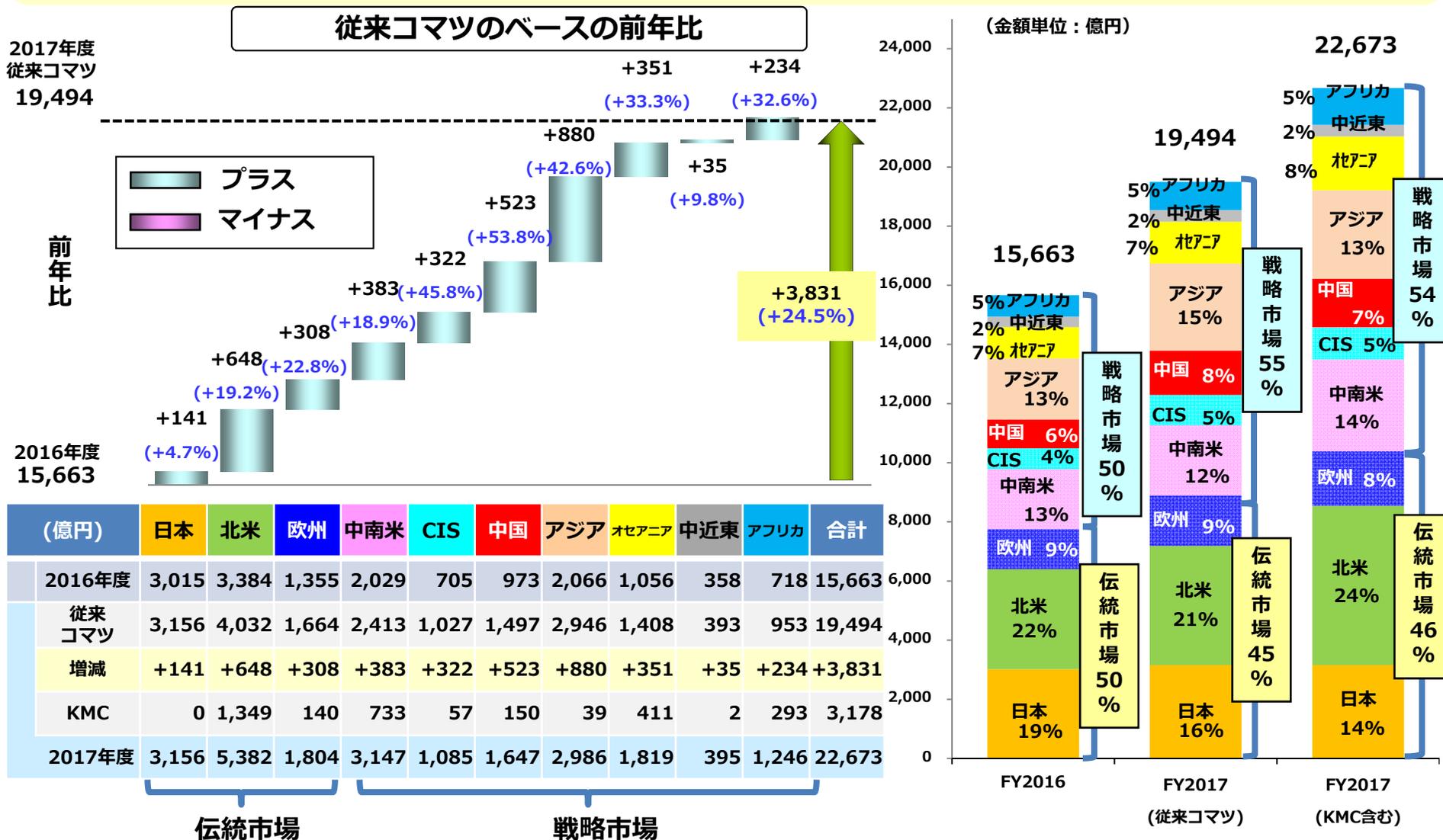
金額単位：億円	2016年度		2017年度 (10月公表値)		2017年度			前年比(C-A)	
	(A)	(B)	従来コマツ	KMC	(C)	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	25,011	21,832	3,178	+6,981	+38.7%
建設機械・車両	15,765 (15,663)	21,060 (20,920)	18,150 (18,010)	2,910 (2,910)	22,809 (22,673)	19,631 (19,494)	3,178 (3,178)	+7,043 (+7,009)	+44.7% (+44.8%)
リテールファイナンス	490 (467)	575 (490)	575 (490)	-	603 (496)	603 (496)	-	+112 (+29)	+22.8% (+6.3%)
産業機械他	1,910 (1,899)	1,880 (1,870)	1,880 (1,870)	-	1,854 (1,841)	1,854 (1,841)	-	▲56 (▲58)	▲2.9% (▲3.1%)
消去	▲137	▲235	▲235	-	▲255	▲255	-	▲118	-
セグメント利益 (▲損失)	9.8% 1,765	10.1% 2,360	12.6% 2,560	▲6.9% ▲200	12.1% 3,029	14.4% 3,154	▲3.9% ▲124	+1,263	+71.6 %
建設機械・車両	10.3% 1,616	10.2% 2,150	12.9% 2,350	▲6.9% ▲200	12.1% 2,759	14.7% 2,884	▲3.9% ▲124	+1,142	+70.7%
リテールファイナンス	9.1% 44	19.1% 110	19.1% 110	-	21.5% 129	21.5% 129	-	+85	+191.1%
産業機械他	6.5% 124	6.6% 125	6.6% 125	-	7.8% 144	7.8% 144	-	+19	+16.0%
消去または全社	▲20	▲25	▲25	-	▲4	▲4	-	+16	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
北米・中国・アジアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益。
- 産業機械他
売上高は減収。自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。

〈建設機械・車両〉2017年度の地域別売上高（外部顧客向け）

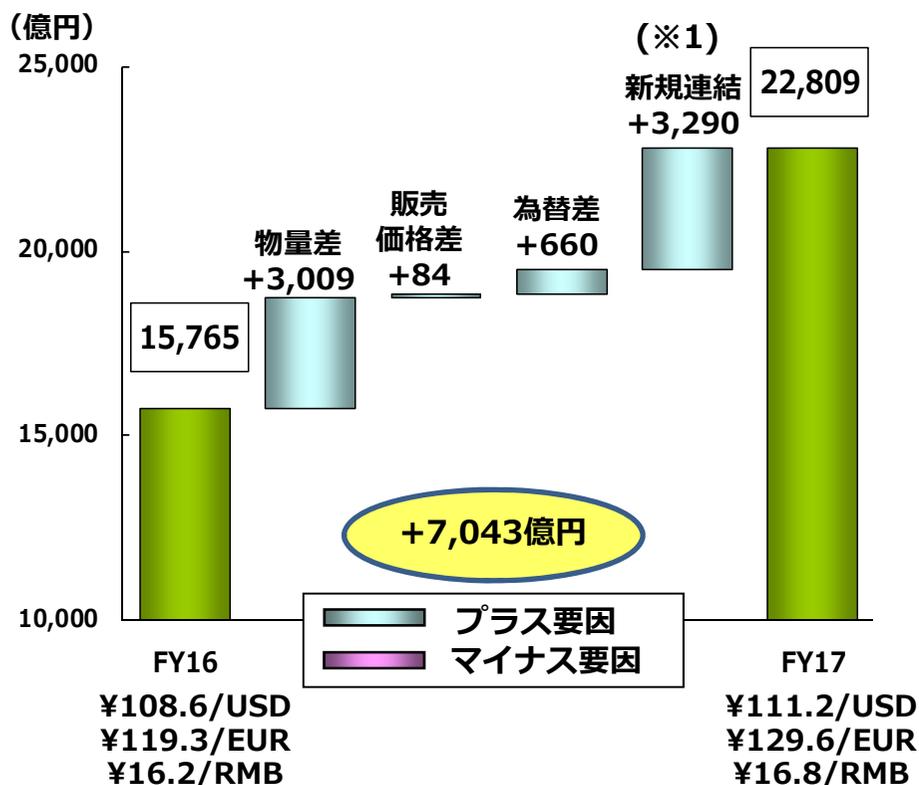
- 外部顧客向け売上高は前年比+44.8%増収の2兆2,673億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+24.5%増収の1兆9,494億円。
- 従来コマツの売上高は、すべての地域で増加。特に、北米・中国・アジアでの売上高が増加。
- 戦略市場の比率は55%に上昇。（KMCを含む全体での戦略市場比率は54%）



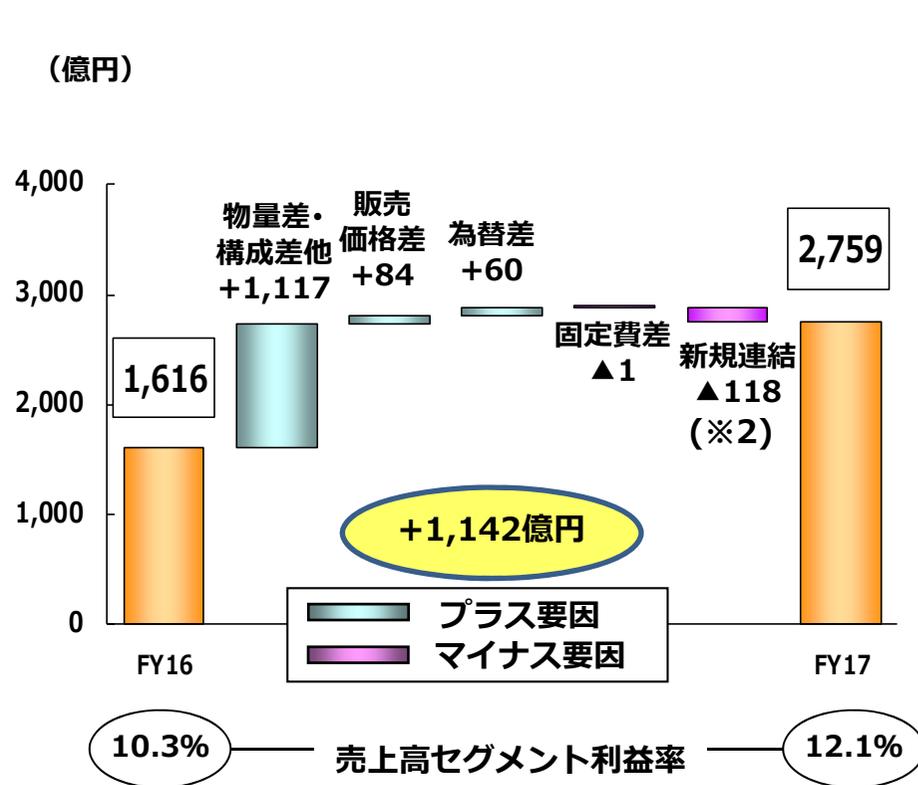
2017年度の売上高とセグメント利益の増減要因

- ・売上高は物量の増加及び為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年比+7,043億円の増収。
- ・セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの、全体としては+1,142億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.8ポイント増の12.1%。

売上高
2016年度 vs. 2017年度



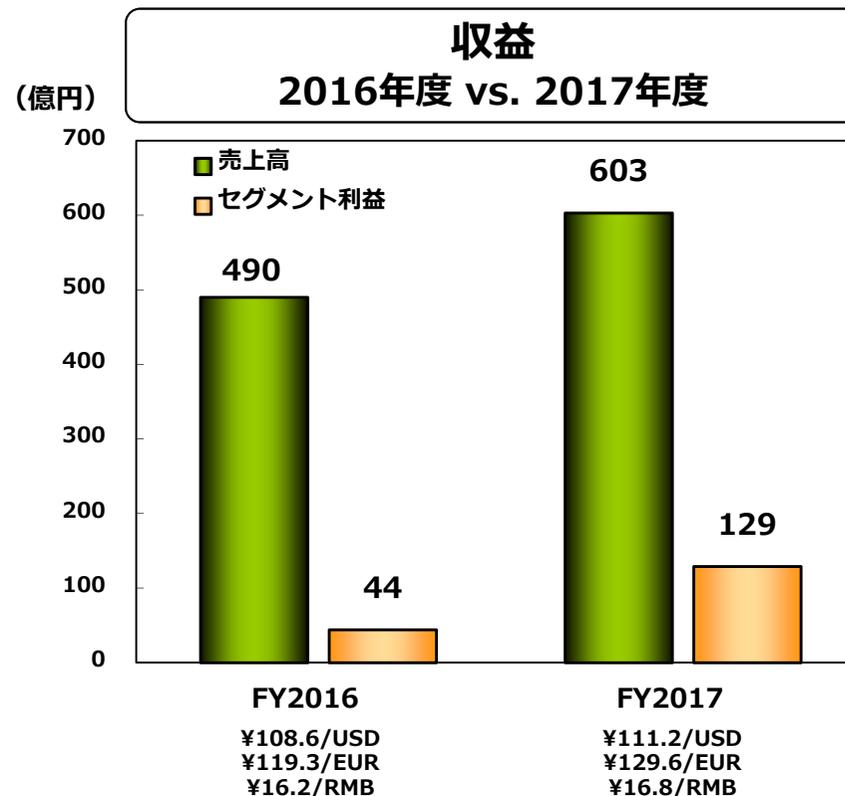
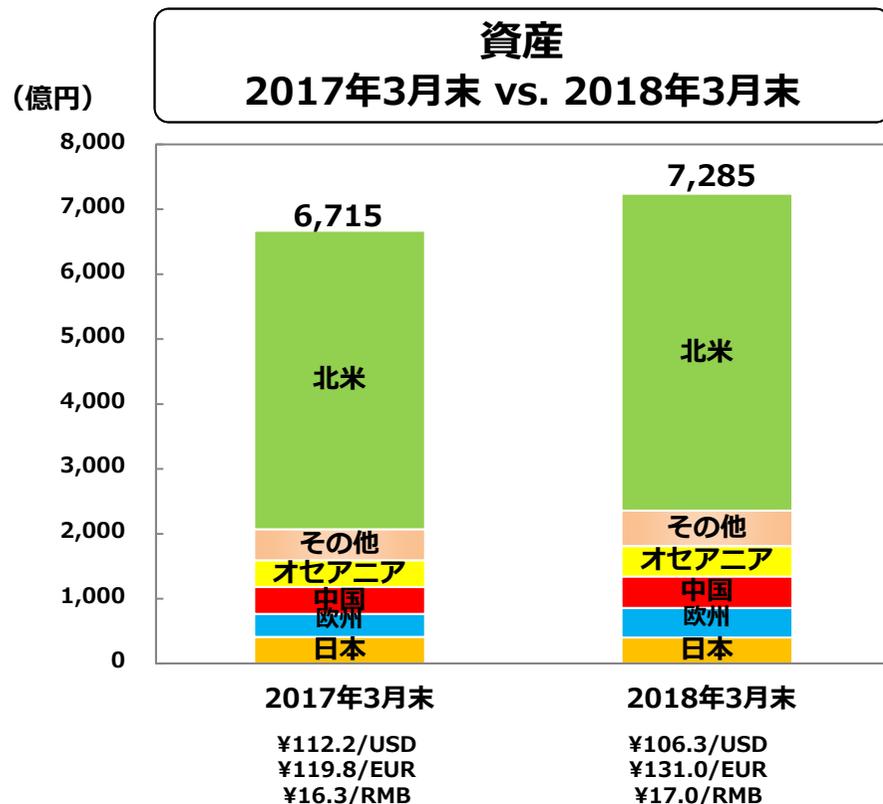
セグメント利益
2016年度 vs. 2017年度



(※1)KMC新規連結の影響+3,178億円を含む

(※2)KMC新規連結の影響▲124億円を含む

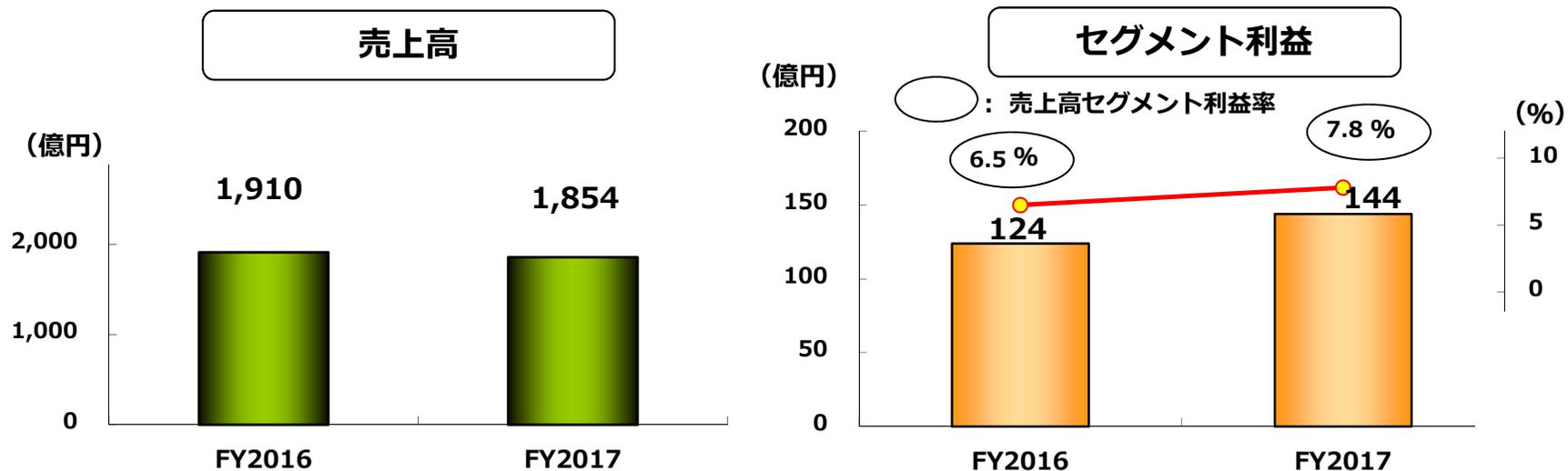
- ・資産は主に北米等で販売が増加したことにより増加。
- ・収益は主として、前年度に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益。



	2017/3E	2018/3E	2017/3E比
借入金	5,060	5,460	+400
ネットベースの借入金	5,012	5,426	+414
ネットD/Eレシオ	3.65	3.50	▲0.15ポイント

	FY2016	FY2017	前年比
ROA	0.7%	1.9%	+1.2%

- ・売上高は前年比▲2.9%減収の1,854億円。
- ・自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。売上高セグメント利益率は7.8%。



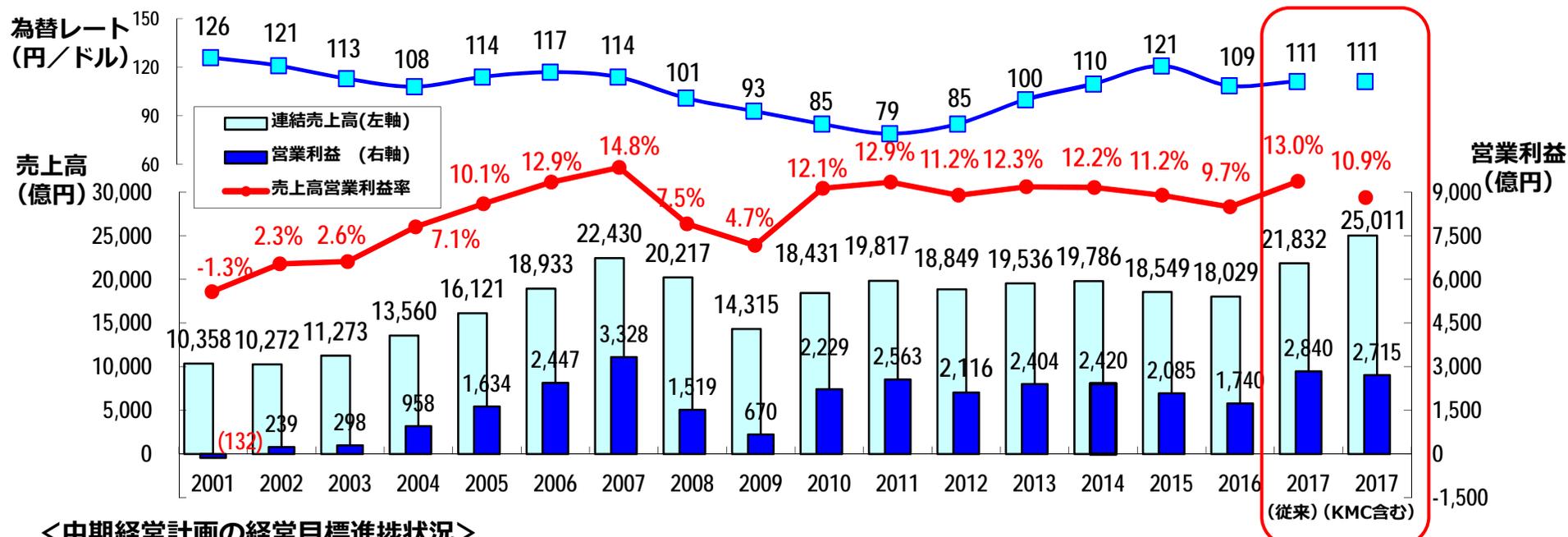
金額単位：億円	FY2016	FY2017	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	566	514	▲51	▲9.1%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	552 [107]	629 [86]	+77 [▲19]	+14.0% [▲18.6%]
ギガフォトン	320	371	+51	+15.9%
その他	470	337	▲132	▲28.2%
合計	1,910	1,854	▲56	▲2.9%

連結貸借対照表

- ・総資産はKMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+7,160億円の増加。
- ・借入金・社債については、KMC買収等により、前年度末比で+4,018億円増加の8,105億円。
- ・株主資本比率は前年度末比▲10.0ポイント減の49.4%。

(金額単位：億円) ○：ネットD/Eレシオ	2017年3月末 ¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥ 16.3/RMB	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥ 17.0/RMB	増減	2018年3月末 KMC 新規連結の影響
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,221	1,468	+246	166
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	9,332	11,550	+2,218	776
棚卸資産	5,338	7,302	+1,963	1,146
有形固定資産	6,790	7,405	+615	779
その他資産	3,881	5,997	+2,116	2,513
資産合計	26,564	33,725	+7,160	5,382
支払手形・買掛金	2,401	3,035	+634	310
借入金・社債 [b]	4,087	8,105	+4,018	1,015
その他負債	3,591	5,147	+1,556	1,112
負債合計	10,079	16,289	+6,209	2,437
(株主資本比率)	(59.4%)	(49.4%)	(▲10.0ポイント)	
株主資本	15,766	16,645	+878	
非支配持分	718	790	+72	
負債及び純資産合計	26,564	33,725	+7,160	
ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]	0.18 2,865	0.40 6,637	+3,772	
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)	▲0.15	0.08		

・中期経営計画の経営目標に対し、2年目の実績としては、順調に推移。



<中期経営計画の経営目標進捗状況>

	経営目標	年度	FY2016	FY2017
		指標	実績	実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率を目指す。	売上高成長率 [対2015年度]	▲2.8%	38.7% [34.8%]
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率を目指す。	営業利益率	9.7%	10.9%
効率性	・ ROEは10%レベルを目指す。	ROE	7.3%	12.1%
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とし、60%を超えない限り減配はしない。	連結配当性向	48.2%	40.3%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質を目指す。	ネットD/Eレシオ	0.18	0.40
リテールファイナンス事業	・ ROA 2.0%以上	ROA	0.7%	1.9%
	・ ネットD/Eレシオを5倍以下	ネットD/Eレシオ	3.65	3.50

3つの経営戦略	進捗状況	活動の例
1.イノベーションによる成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> ICT建機の機種拡大 スマートコンストラクションの現場導入（国内累計5,000超） 株式会社NTTドコモ、SAPジャパン株式会社、株式会社オプティムとの、建設生産プロセス全体をつなぐ新プラットフォーム「LANDLOG」の共同企画・運用 無人ダンプトラック運行システムの総稼働台数100台超の達成 有人ダンプトラックの無人化を可能にする後付キットの開発
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> スマートコンストラクションの更なる強化・拡大 ギガフォトンにおけるEUV光源*・新商品開発 次世代KOMTRAXの開発
2.既存事業の成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> 最新の排出ガス規制に対応した商品の開発・導入 M&Aによる部品の販売増 アジアトレーニング&デモンストレーションセンターでのカリキュラム拡充 カナダにおける林業機械用アタッチメント事業の買収
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> コマツマイニングとの統合推進 砕石・セメント分野の強化継続 レンタル・中古車事業やリテールファイナンス事業も含めたバリューチェーンの更なる強化・拡大
3.土台強化のための構造改革	実績	<ul style="list-style-type: none"> 着実なコスト改善活動の実施 グローバル補給部品オペレーション改革 国内の販売会社3社（コマツ建機販売株式会社、コマツレンタル株式会社、コマツリフト株式会社）の合併
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ICTによる業務改革推進（含む働き方改革） 更なるコスト改善活動の推進 グローバルな人材強化、ダイバーシティの推進

*:EUVとはExtreme Ultravioletの略であり、EUV光源は次世代の半導体製造技術のひとつです。

Ⅱ. 2018年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年並の2兆5,030億円。
- ・ 営業利益は前年比+24.8%増益の3,390億円。売上高営業利益率は同+2.7ポイント増の13.5%。
- ・ 純利益は前年比+15.1%増益の2,260億円。

金額単位：億円	2017年度			2018年度(見通し)			前年比	
	¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥100.0 /USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	25,011	21,832	3,178	25,030	21,880	3,150	+19	+0.1%
セグメント利益(▲損失)	3,029	3,154	*2 ▲124	3,450	3,195	*2 255	+421	+13.9%
その他の営業収益(▲費用)	▲313	▲313	▲0	▲60	▲60	-	+253	-
営業利益(▲損失)	2,715	2,840	*2 ▲124	3,390	3,135	*2 255	+675	+24.8%
売上高営業利益率(▲損失率)	10.9%	13.0%	▲3.9%	13.5%	14.3%	8.1%	+2.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	202			▲190			▲392	-
税引前純利益	2,918			3,200			+282	+9.7%
純利益*3	1,964			2,260			+296	+15.1%
ROE	12.1%			13.4%			+1.3ポイント	
1株当たり配当金(円)	84円			96円			+12円	
連結配当性向	40.3%			40.1%			-	

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

※ PPAはPurchase Price Allocation
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略。
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

	2017年度	2018年度(見通し)
PPAによる償却費 ※	▲402億円	▲80億円
統合費用ほか	▲75億円	▲25億円
合計	▲478億円	▲105億円

2018年度の各セグメント売上高と利益の見通し

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比▲0.5%減収の2兆2,700億円。セグメント利益は前年比+15.2%増益の3,180億円。セグメント利益率は+1.9ポイント改善し 14.0%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比▲12.1%減収の530億円。セグメント利益は前年比▲7.4%減益の120億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比+12.2%増収の2,080億円。セグメント利益は前年比+24.5%増益の180億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

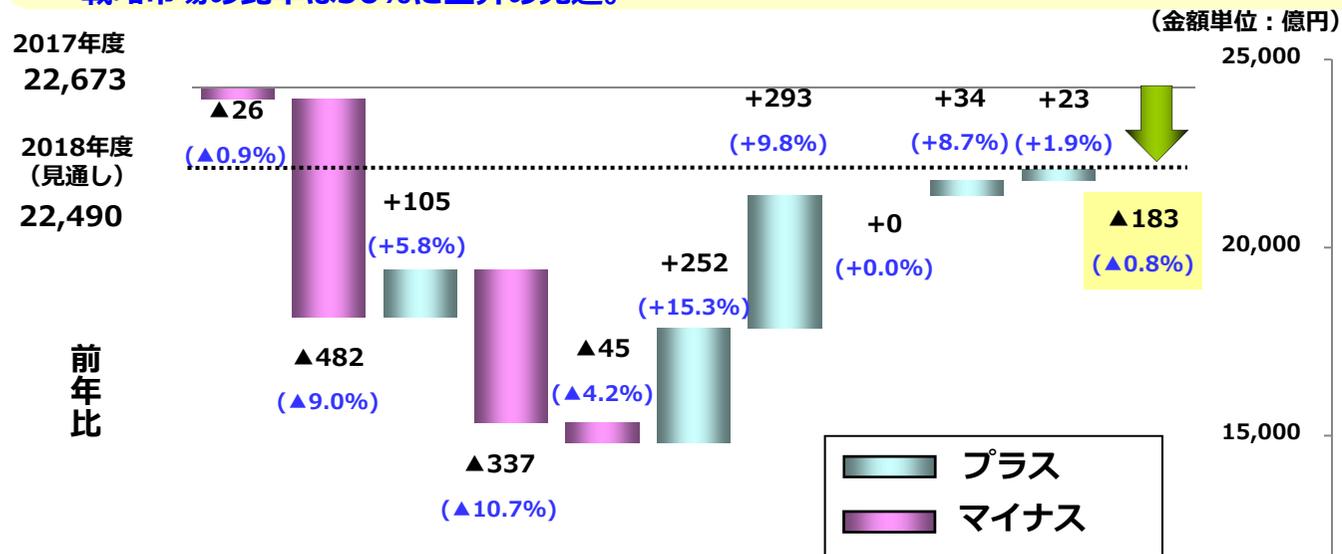
金額単位：億円	2017年度			2018年度 (見通し)			前年比	
	¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ	KMC	¥100.0/USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	25,011	21,832	3,178	25,030	21,880	3,150	+19	+0.1%
建設機械・車両	22,809 (22,673)	19,631 (19,494)	3,178 (3,178)	22,700 (22,490)	19,550 (19,340)	3,150 (3,150)	▲109 (▲183)	▲0.5% (▲0.8%)
リテールファイナンス	603 (496)	603 (496)	-	530 (480)	530 (480)	-	▲73 (▲16)	▲12.1% (▲3.3%)
産業機械他	1,854 (1,841)	1,854 (1,841)	-	2,080 (2,060)	2,080 (2,060)	-	+226 (+219)	+12.2% (+11.9%)
消去	▲255	▲255	-	▲280	▲280	-	▲25	-
セグメント利益 (▲損失)	12.1% 3,029	14.4% 3,154	▲3.9% ▲124	13.8% 3,450	14.6% 3,195	8.1% 255	+421	+13.9%
建設機械・車両	12.1% 2,759	14.7% 2,884	▲3.9% ▲124	14.0% 3,180	15.0% 2,925	8.1% 255	+421	+15.2%
リテールファイナンス	21.5% 129	21.5% 129	-	22.7% 120	22.7% 120	-	▲9	▲7.4%
産業機械他	7.8% 144	7.8% 144	-	8.7% 180	8.7% 180	-	+36	+24.5%
消去または全社	▲4	▲4	-	▲30	▲30	-	▲26	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
戦略市場などでの売上の増加、販売価格のアップを見込むものの、為替のマイナス影響により売上高はほぼ横ばい。
KMCの一時費用のマイナス影響が前年比で大幅に減少すること、従来コマツでの物量差益、及び販売価格アップにより増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加があるものの、為替のマイナス影響により減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの工作機械の販売増加、新型サーボプレス市場導入などに伴い増収増益。

<建設機械・車両> 2018年度の地域別売上高の見通し (外部顧客向け)

- ・ KMCを含んだ全体での外部顧客向け売上高は前年比▲0.8%減収の2兆2,490億円。うち、KMCを除く従来コマツの売上高は1兆9,340億円。
- ・ 中国やアジアなどの戦略市場を中心とした売上の増加がある一方で、為替のマイナス影響で全体としてほぼ横ばい。為替影響を除くベースでは、日本を除く全ての地域でプラスとなる見通し。
- ・ 戦略市場の比率は56%に上昇の見込。

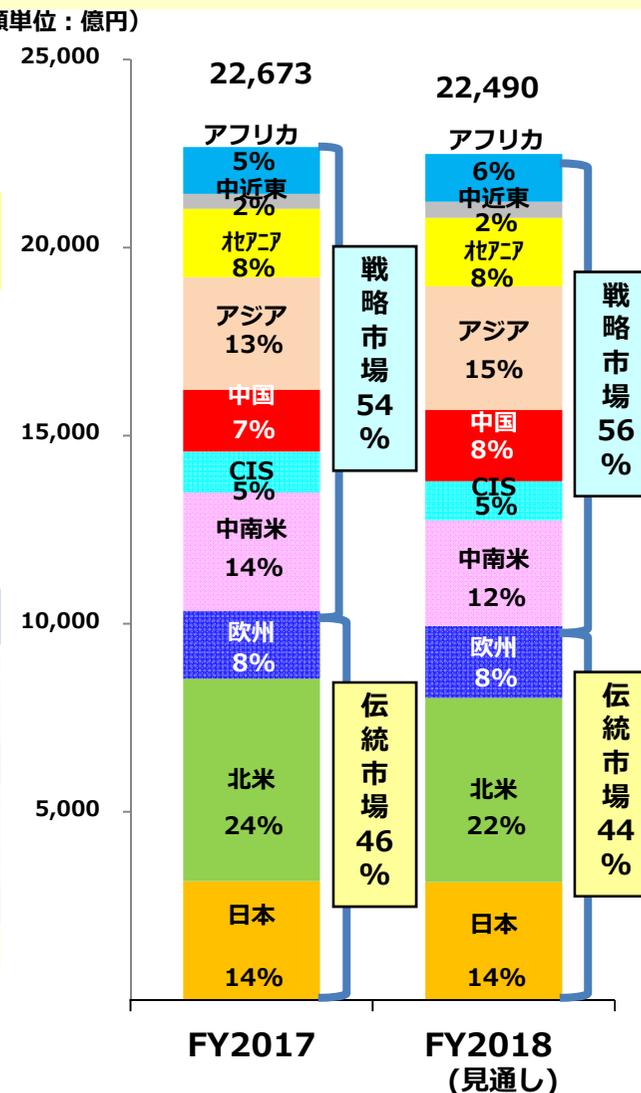


(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
従来コマツ	3,156	4,032	1,664	2,413	1,027	1,497	2,946	1,408	393	953	19,494
KMC	0	1,349	140	733	57	150	39	411	2	293	3,178
2017年度 ①	3,156	5,382	1,804	3,147	1,085	1,647	2,986	1,819	395	1,246	22,673
従来コマツ	3,130	3,620	1,670	2,190	1,000	1,730	3,260	1,340	430	970	19,340
KMC	0	1,280	240	620	40	170	20	480	0	300	3,150
2018年度 ②	3,130	4,900	1,910	2,810	1,040	1,900	3,280	1,820	430	1,270	22,490
増減 ②-①	▲26	▲482	+105	▲337	▲45	+252	+293	+0	+34	+23	▲183

伝統市場

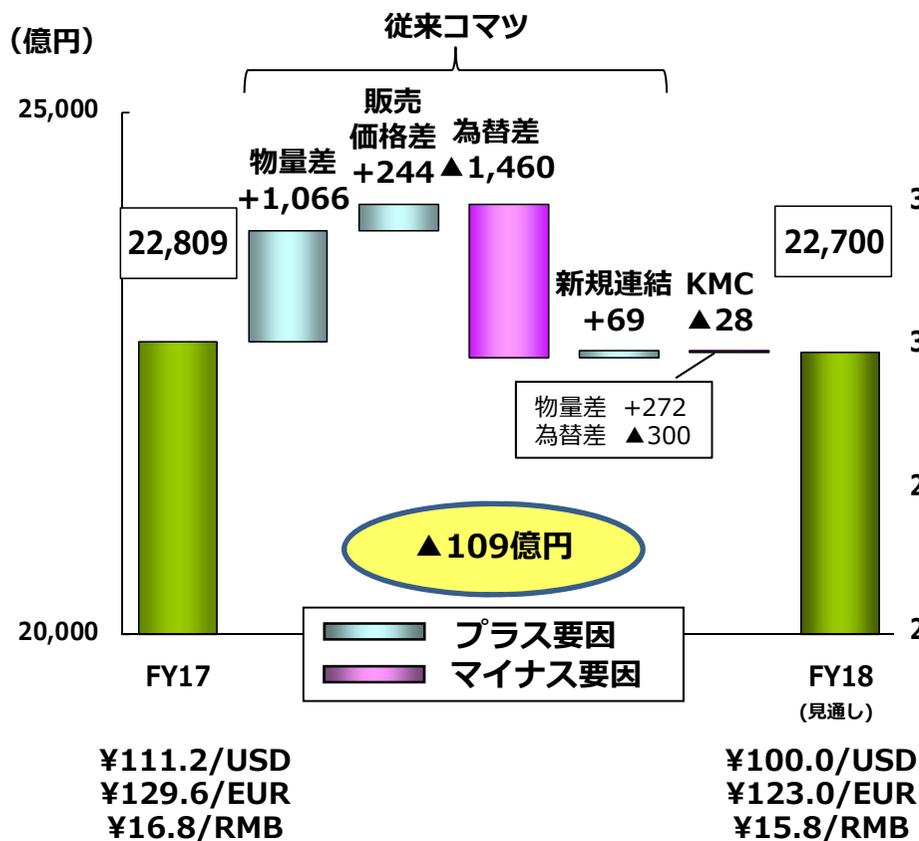
戦略市場

※ 為替影響を除くベースでプラスの地域

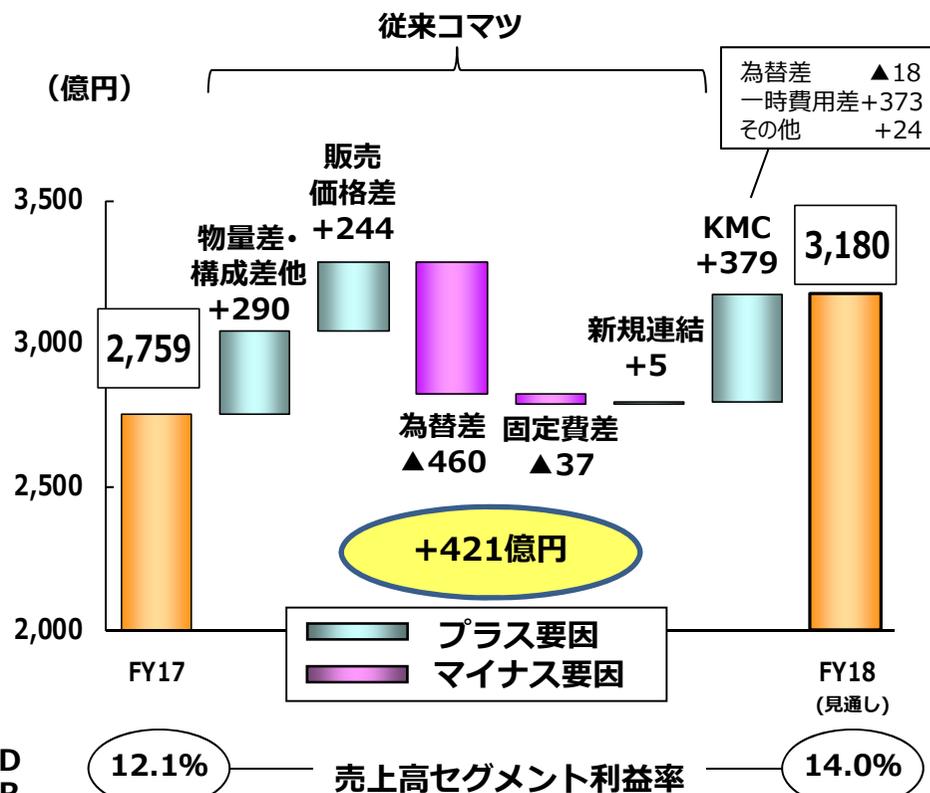


- ・売上高は物量の増加、価格アップのプラス影響があるものの、為替のマイナス影響により、前年比▲109億円の減収。
- ・セグメント利益は為替のマイナス影響を物量増・価格アップのプラス影響によりカバーし、前年比+421億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.9ポイント増の14.0%。

売上高 FY2017 vs. FY2018(見通し)



セグメント利益 FY2017 vs. FY2018(見通し)



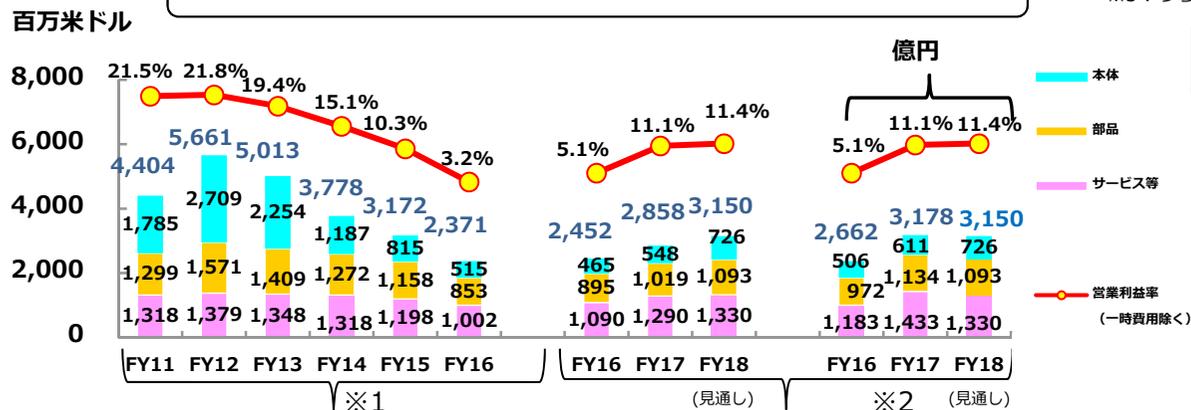
<建設機械・車両> KMC の業績概況

- ・2017年度の売上高は、前年比+19.4%増収の3,178億円、一時費用含む営業損失は▲124億円。
- ・2018年度の売上高は、前年比▲0.9%減収の3,150億円、一時費用減少に伴い営業利益は255億円の見通し。

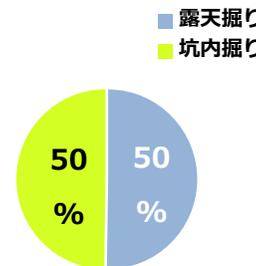
(金額単位：億円)	2016年度 (参考) ※1 (¥108.6/USD) (A)	2017年度 (¥111.2/USD) (B)	2018年度 見通し (¥100.0/USD) (C)	前年比(B-A) (参考)		前年比(C-B)	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,662	3,178	3,150	+516	+19.4%	▲28	▲0.9%
本体	506	611	726	+105	+20.8%	+115	+18.8%
部品	972	1,134	1,093	+162	+16.7%	▲41	▲3.6%
サービス等	1,183	1,433	1,330	+250	+21.1%	▲103	▲7.2%
営業利益 <一時費用除く>	5.1% 134	11.1% 353	11.4% 360	+219	+163.4%	+7	+2.0%
一時費用 (マイナスで表記)	▲102	▲478	▲105	▲376	-	+373	-
PPAによる償却費 ※2	-	※3 ▲402	▲80	▲402	-	+322	-
統合費用ほか	▲102	▲75	▲25	+27	-	+50	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	1.2% 33	▲3.9% ▲124	8.1% 255	▲157	-	+379	-

※1：2016年度の数値はコマツの決算期に紐替して記載している。
 ※2：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き
 ※3：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円

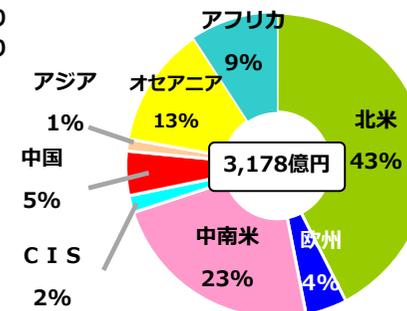
年度別売上高・営業利益率の推移



FY17セグメント別売上高



FY17地域別売上高 (外部顧客向け)



※1: 11月～10月決算 (旧 ジョイ・グローバル社の決算期)

※2: 4月～3月決算 (コマツの決算期)

＜建設機械・車両＞ KMC の業績概況（統合初年度の主なシナジー効果）

- ・統合初年度の2017年度に、想定を上回る約25億円のシナジー効果を確定（2017年度以降の業績寄与分も含む）。
- ・本体、部品、サービス、リマン/リビルド*の新規受注獲得に加え、共同購買や資金調達の統合によるコスト削減を実現。

 **本体/部品販売**



米国

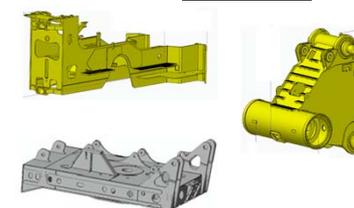


- ・KMC製品への標準装備による部品**売上増加**

- ・中南米における商談では、コマツの信頼関係を軸に、KMC製ロープショベルの**受注獲得**

 **サプライチェーン**

オーストラリア



- ・共同購買による鋼材、副資材等の**調達費削減**

シナジー効果（2017年度確定分）

約25億円 税引前利益ベース

2017年度以降の業績寄与分も含む

 **サービス、リマン/リビルド***

ペルー



- ・両社の拠点を有効活用し、サービスおよびリマン・リビルド**売上増**

*リマン/リビルド：部品やコンポーネントの再生事業

 **バックオフィス**



- ・資金調達のコマツアメリカとの統合による**支払金利削減**
- ・保険料/出張手配**手数料の削減**



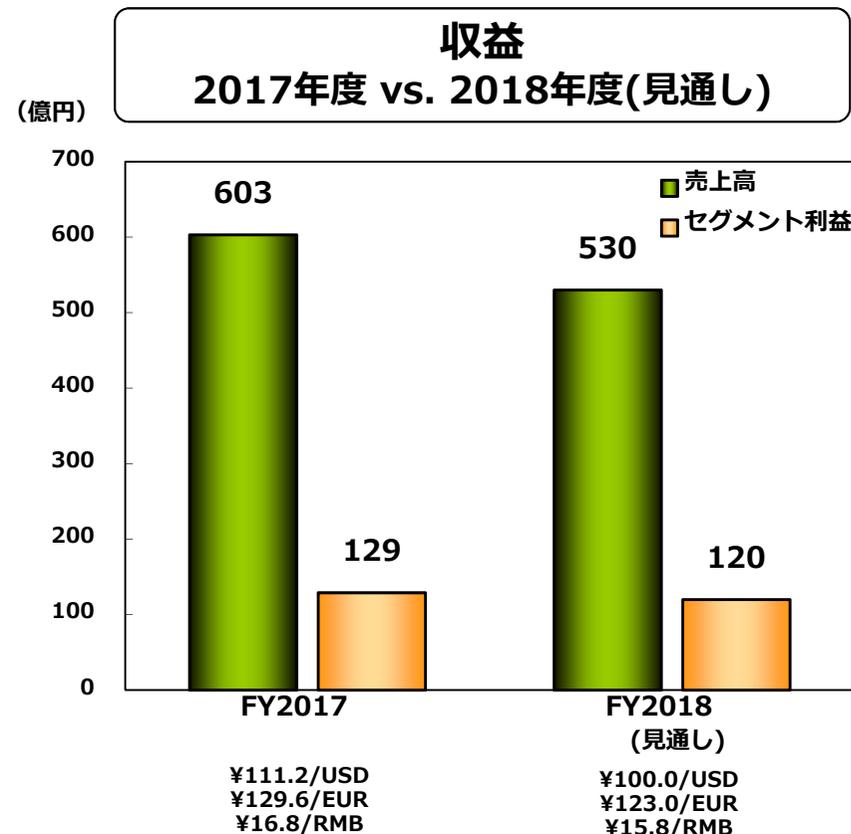
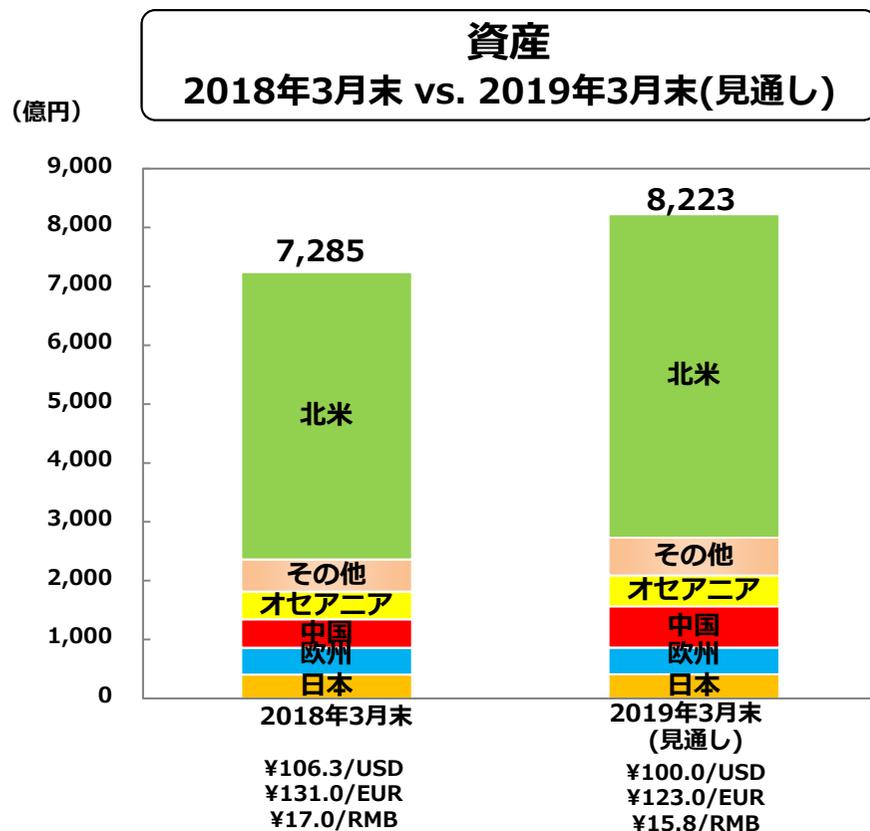
- ・KMC中国のコマツCMS加入による**資金効率化**



- ・バックオフィス統合による**コスト抑制**

＜想定シナジー（2021年度 目標）＞ **KMC売上高の約10%**

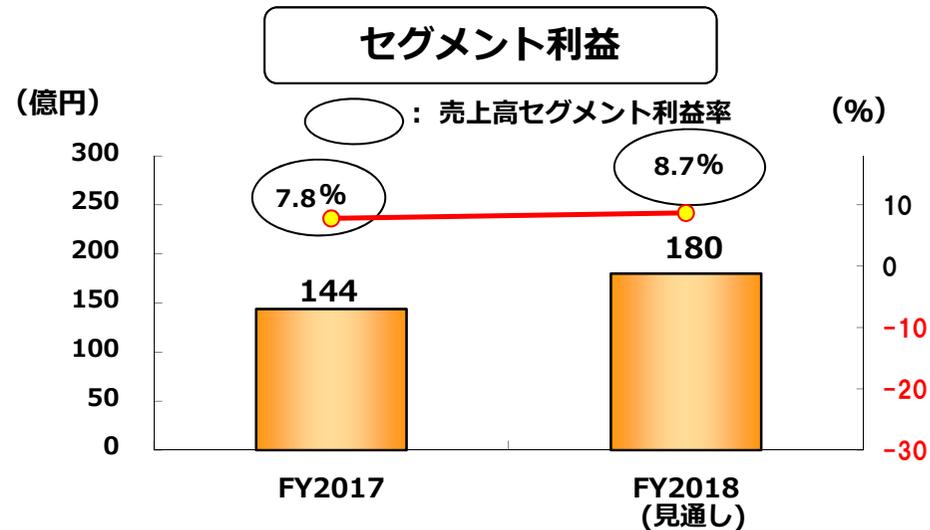
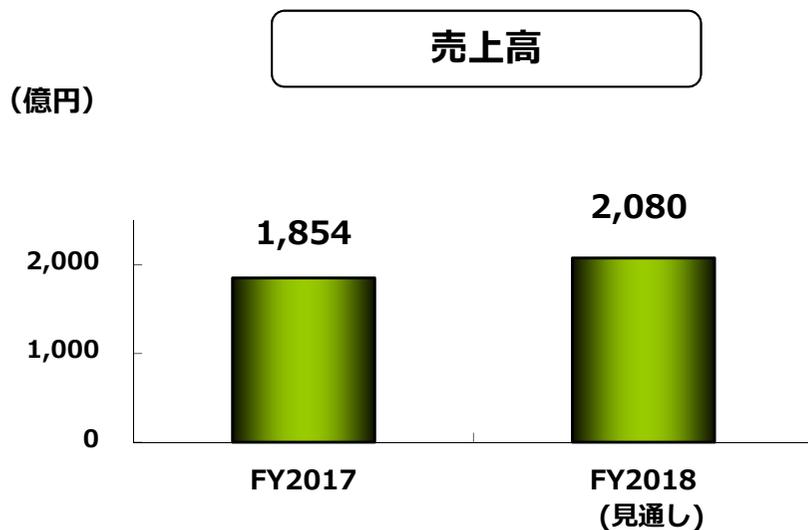
- ・資産は主に北米等で販売が増加することにより増加の見通し。
- ・収益は為替のマイナス影響等により減収減益となる見通し。



金額単位：億円	2018/3E	2019/3E(見通し)	2018/3E比
借入金	5,460	6,575	+1,115
ネットベースの借入金	5,426	6,517	+1,090
ネットD/Eレシオ	3.50	4.70	+1.20ポイント

	FY2017	FY2018(見通し)	前年比
ROA	1.9%	1.6%	▲0.3%

・ 売上高は前年比+12.2%増収の2,080億円、セグメント利益は前年比+35億円増益の180億円となる見通し。

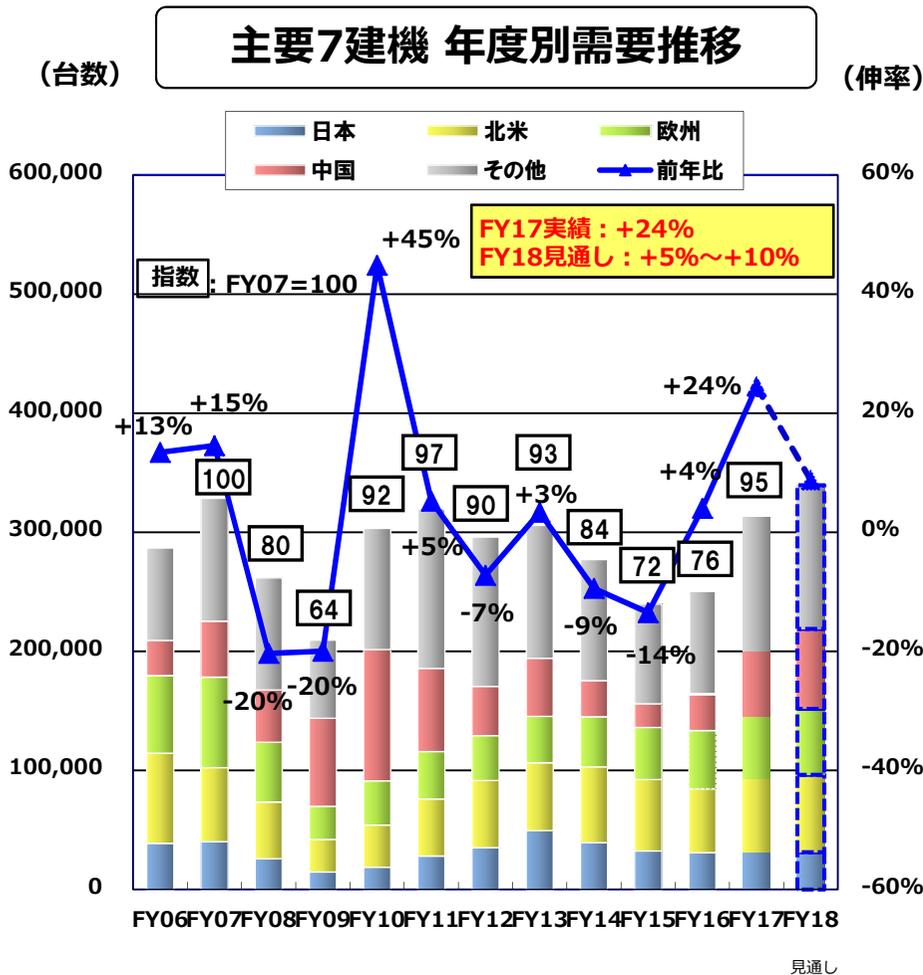


売上高の内訳

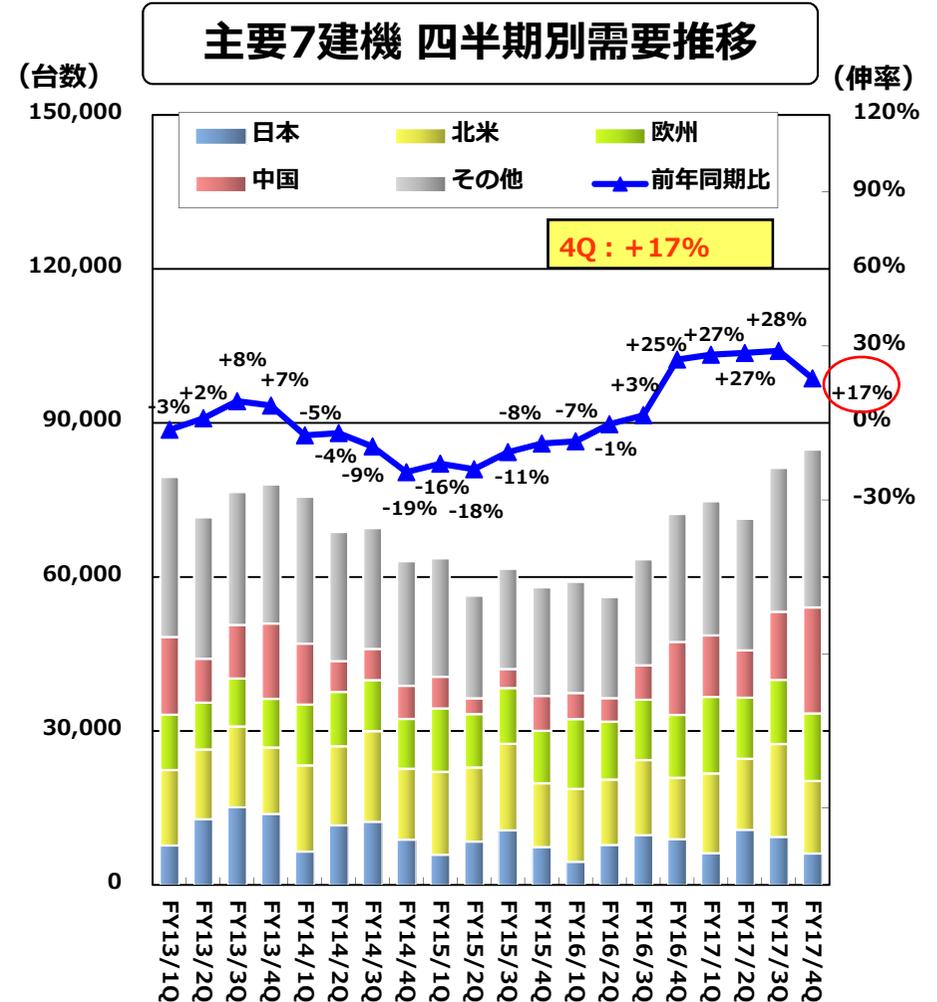
金額単位：億円	FY2017	FY2018 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	514	615	+100	+19.5%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	629 [86]	679 [78]	+49 [▲8]	+7.9% [▲9.8%]
ギガフォトン	371	405	+33	+9.1%
その他	337	380	+42	+12.5%
合計	1,854	2,080	+225	+12.2%

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・ 2017年度の需要は、前年比+24%増加。
- ・ 2018年度の需要は、全体としては前年比 +5%~+10% の見通し。



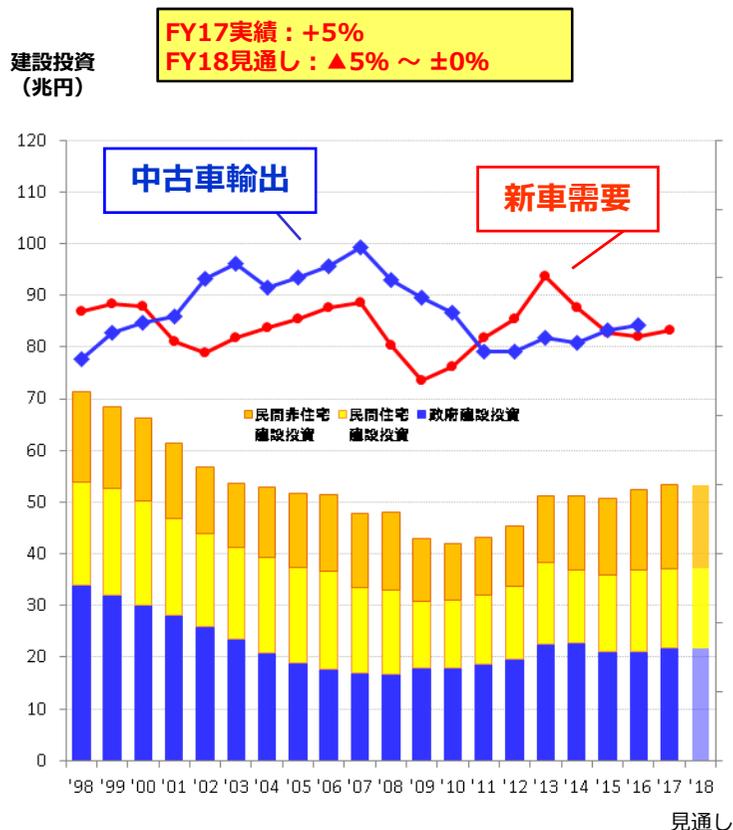
【出所】 主要7建機需要：コマツの推定



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

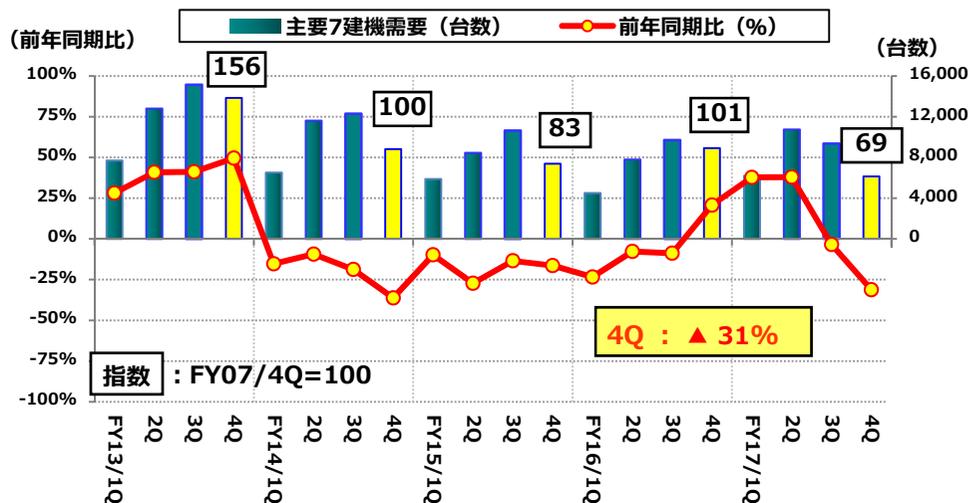
- ・ 2017年度の需要は、前年比+5%増加。下期は国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減などにより新車需要が減少。
- ・ 2018年度の需要は前年比▲5%～±0%の見通し。

新車需要（主要7建機）と建設投資

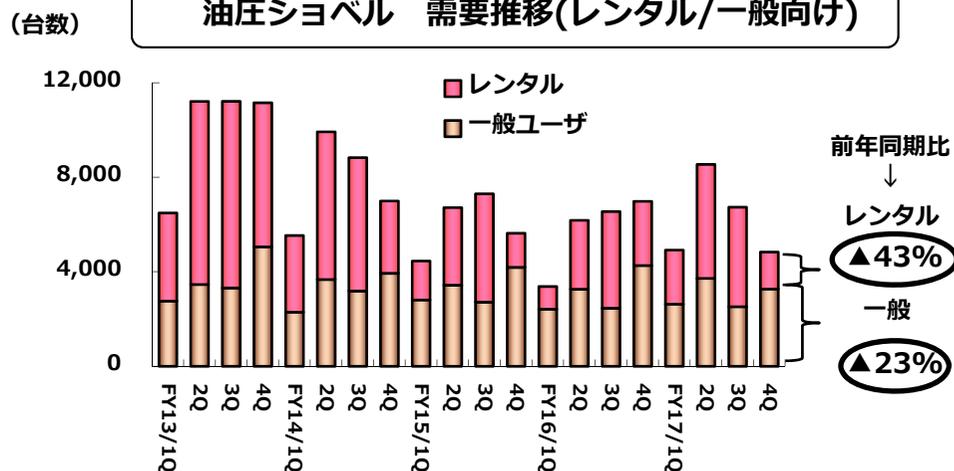


【出所】 建設投資：国土交通省／建設経済研究所
 主要7建機需要：コマツの推定
 中古車輸出货量：コマツの推定

主要7建機 四半期別需要推移



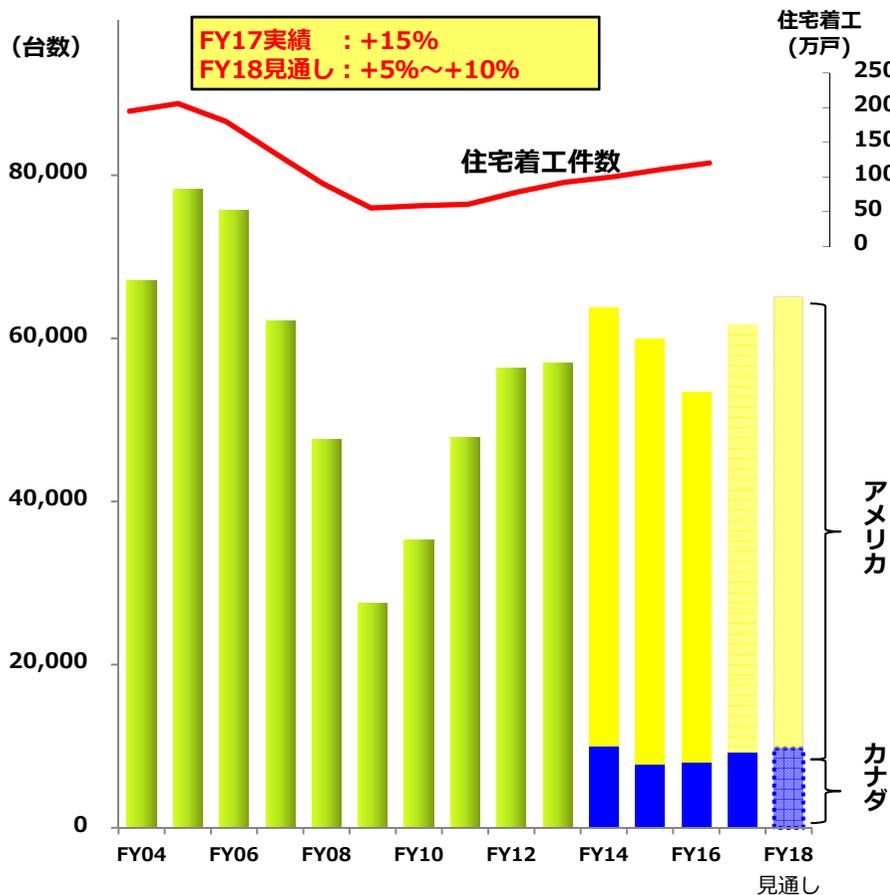
油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

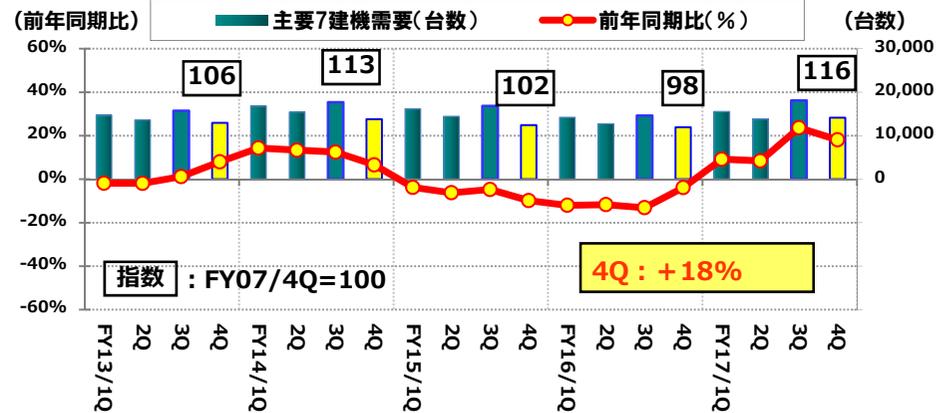
- ・ 2017年度の需要は、前年比+15%増加。
- ・ アメリカにおいて、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加。
- ・ 2018年度の需要は前年比+5%~+10%増加の見通し。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

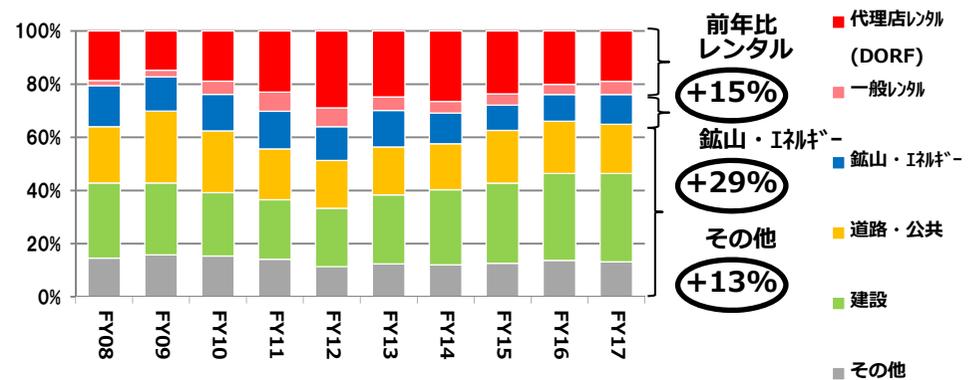


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



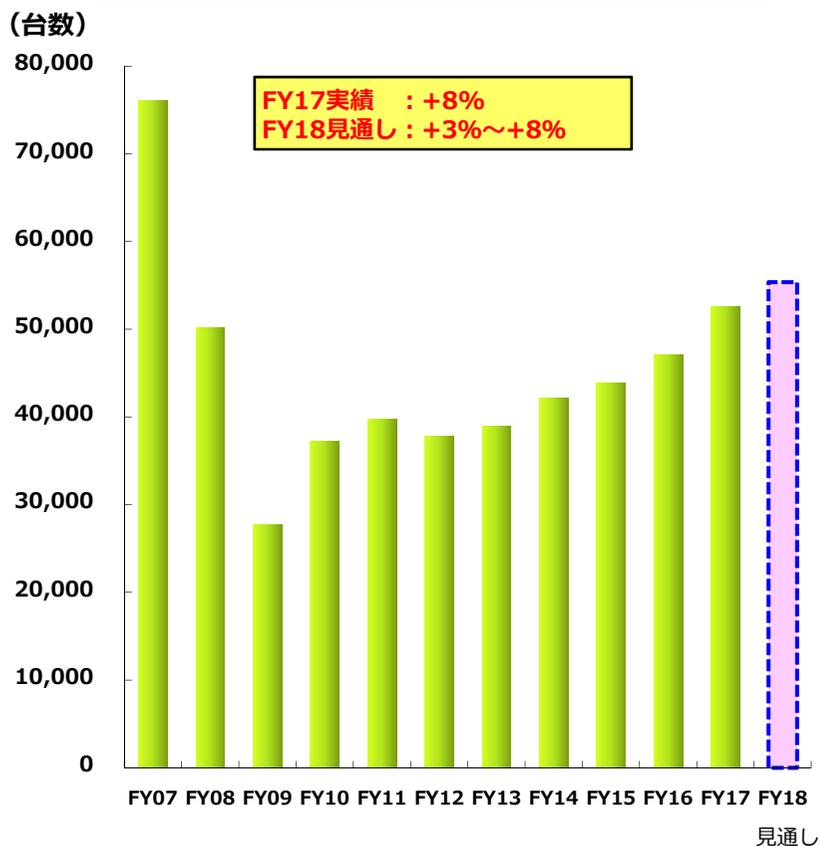
セグメント別需要構成比(台数ベース)



＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：③ 欧州

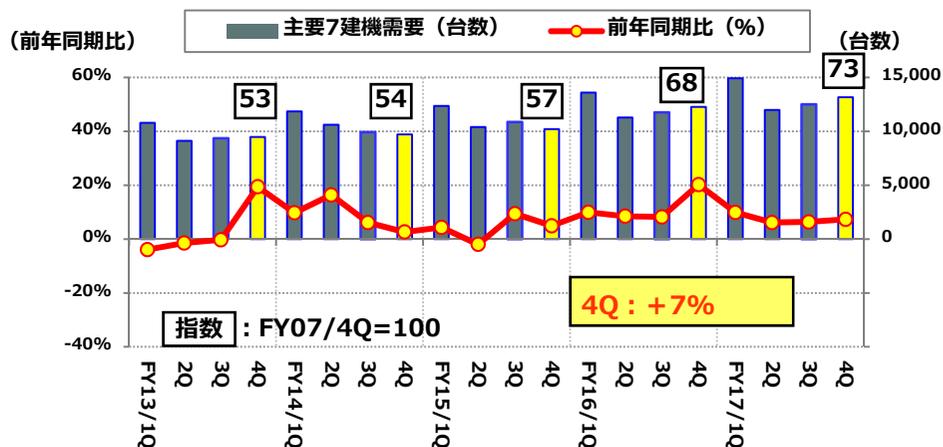
- ・ 2017年度の需要は、前年比+8%増加。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツや北欧を中心に堅調に推移。
- ・ 2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+3%～+8%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

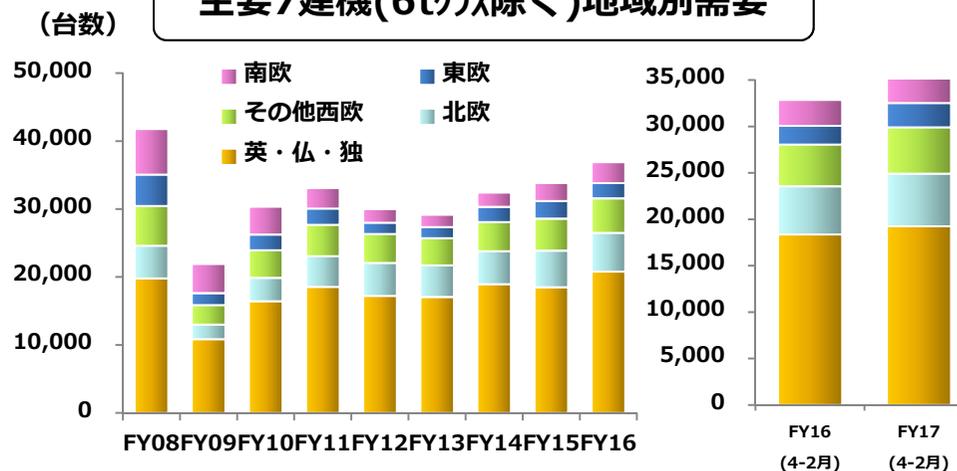


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移

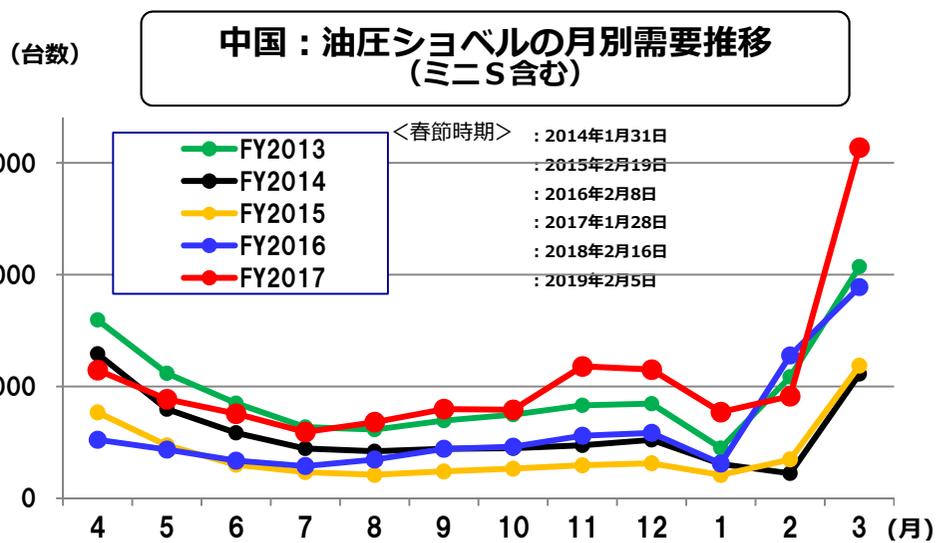
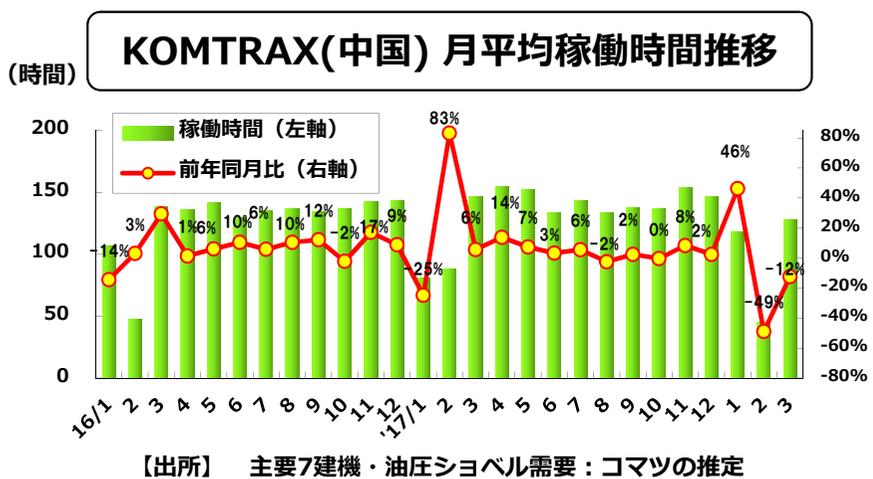
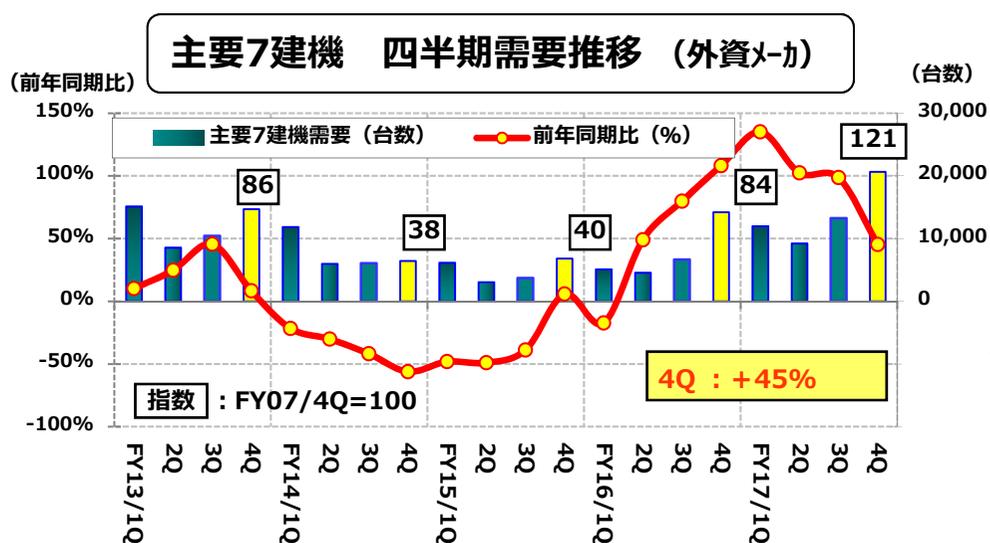
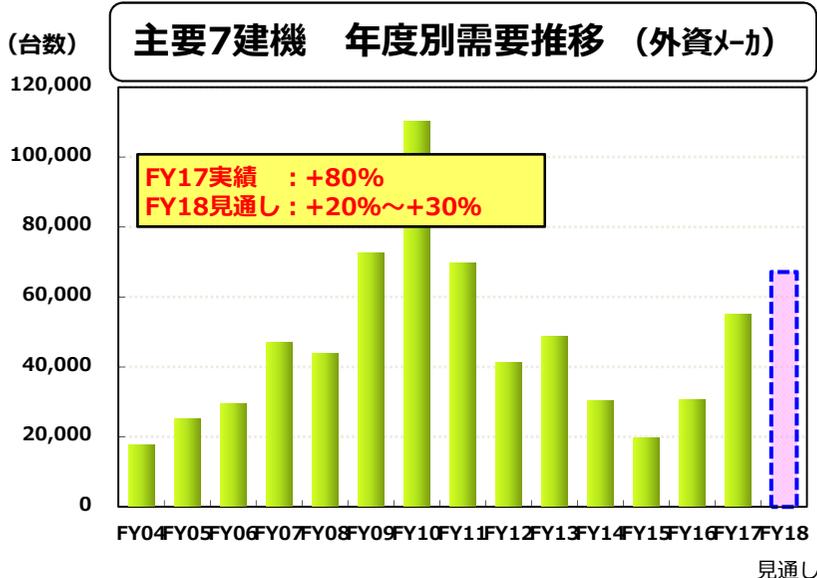


主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

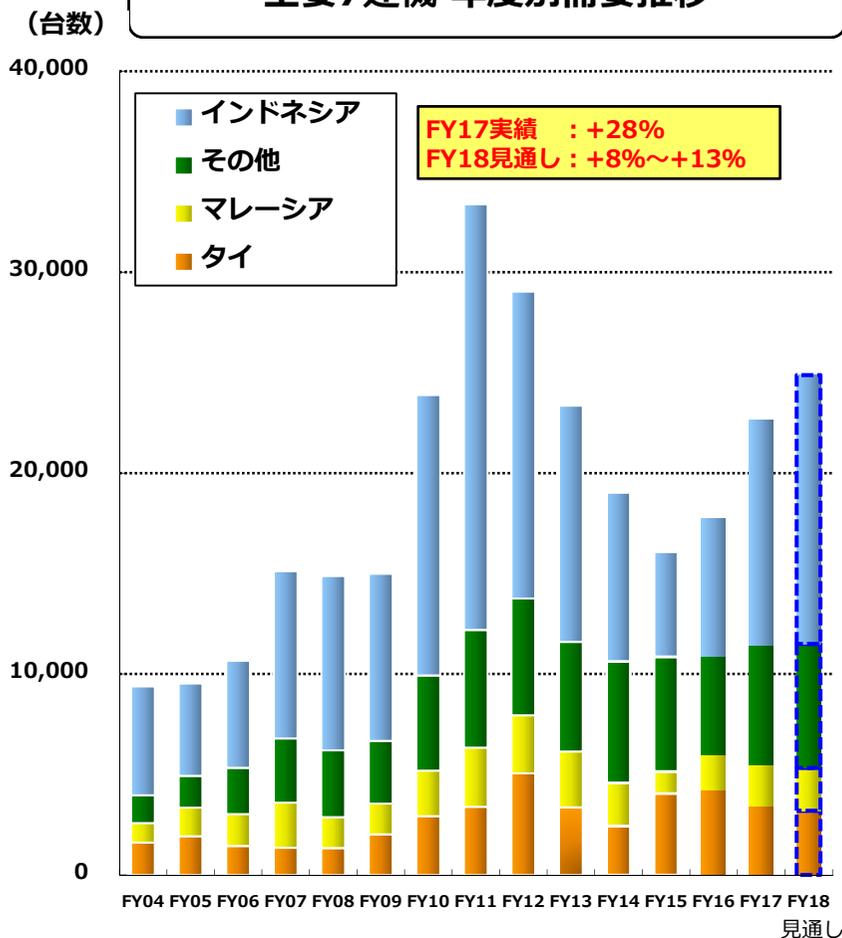
- ・ 2017年度の需要は、前年比+80%増加。
- ・ 引き続きインフラ工事が進行し、一般建機の需要が増加。
- ・ 2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+20%~+30%の見通し。



<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：⑤ 東南アジア

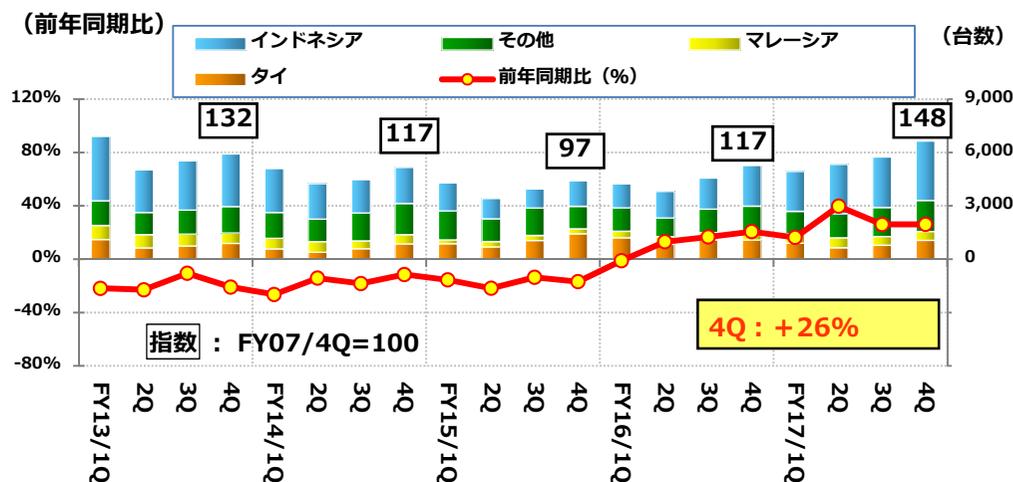
- ・ 2017年度の需要は、前年比+28%増加。
- ・ 最大市場のインドネシアで、特にマイニングの需要が増加。
- ・ 2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+8%~+13%の見通し。

主要7建機 年度別需要推移

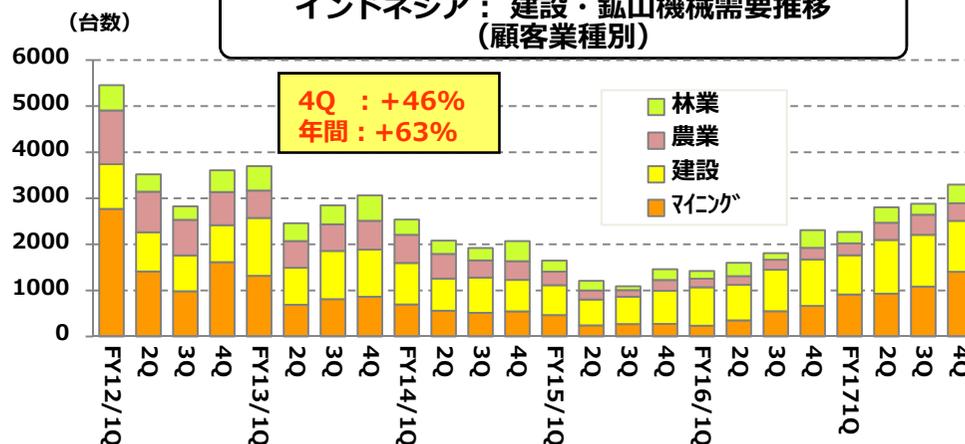


【出所】 主要7建機需要：コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



インドネシア：建設・鉱山機械需要推移 (顧客業種別)

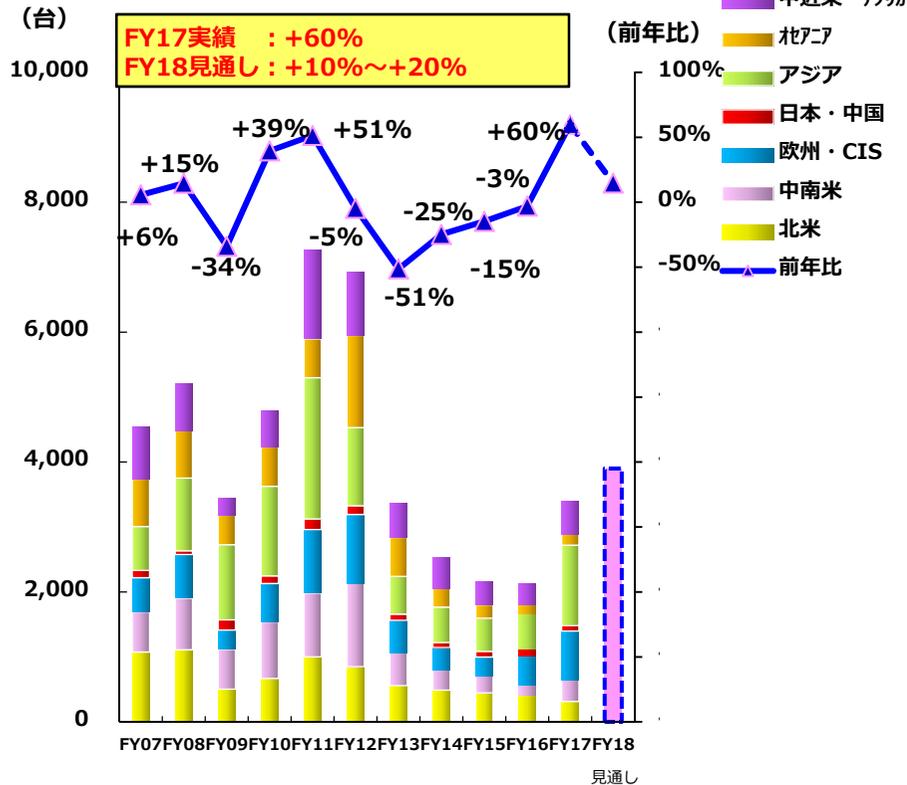


<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・ 2017年度の鉱山機械の世界需要は、前年比+60%増加。
- ・ 引き続きインドネシア、オセアニア、アフリカなどで需要が増加。
- ・ 2018年の需要は、前年比+10%~+20%の見通し。

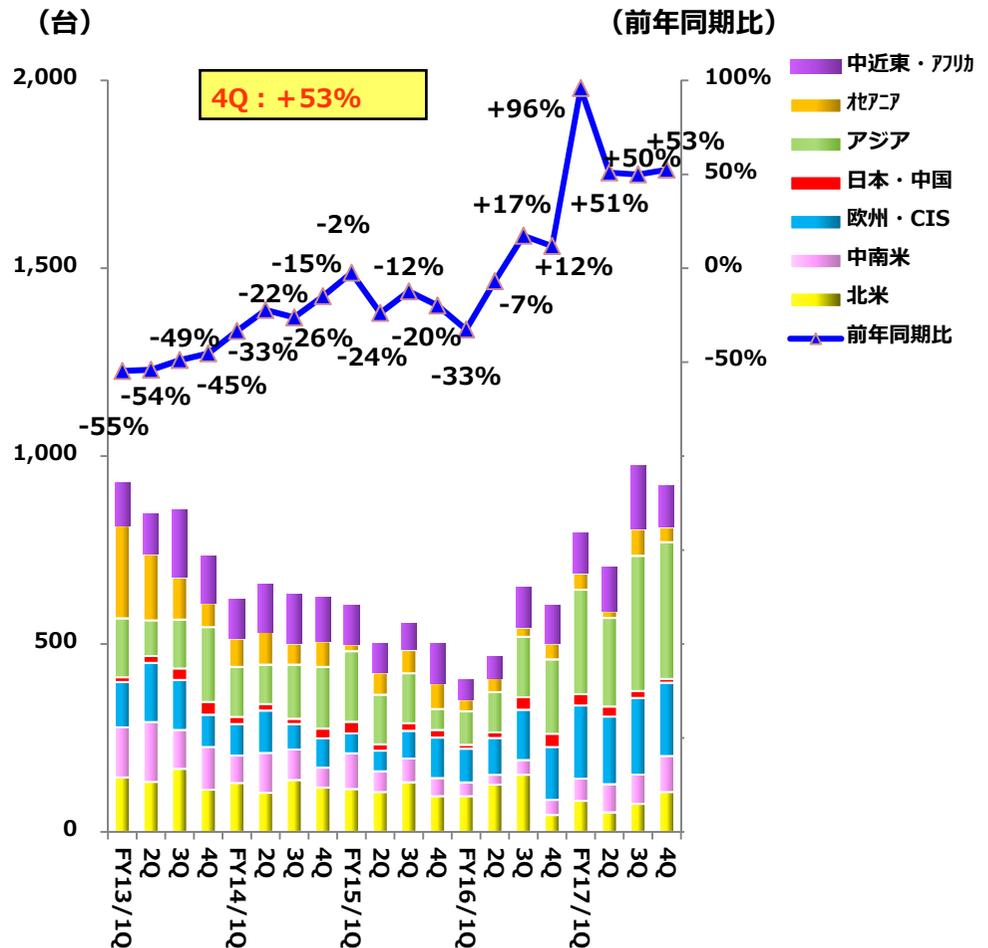
鉱山機械 年度別需要推移

・ ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ フロントローダー：525HP (D375) 以上
 ・ エクスキャバタ：200 t (PC2000) 以上 ・ ホールローダー：810HP (WA800) 以上
 ・ モーターグレーダー：280HP (GD825) 以上



【出所】 コマツの推定

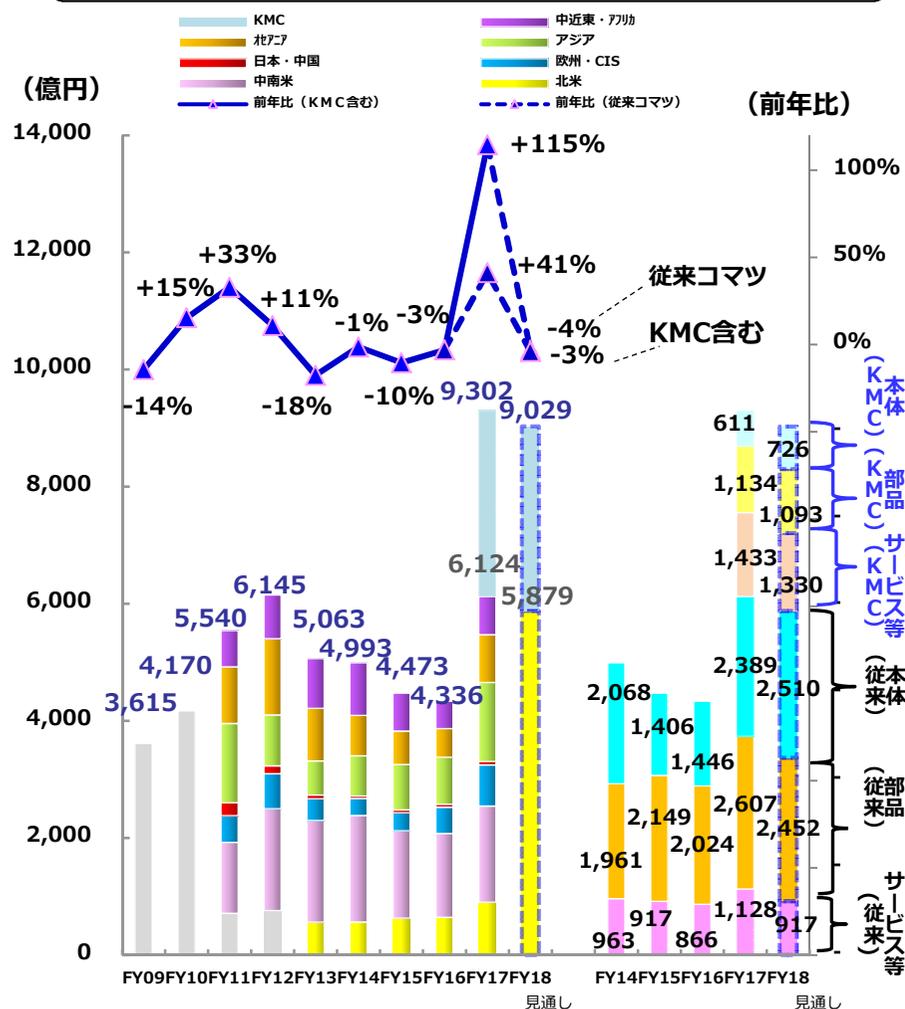
鉱山機械 四半期別需要推移



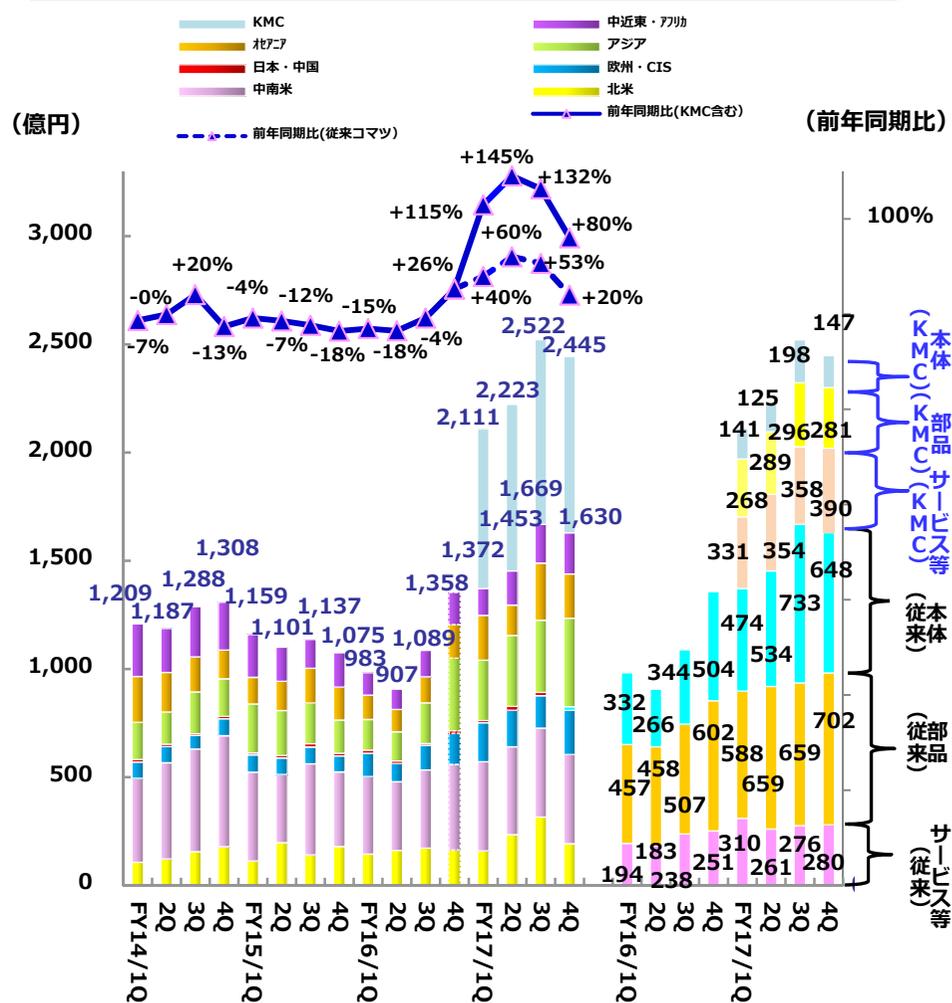
<建設機械・車両> 鉱山機械の売上高

- ・ 2017年度の売上高は、前年比+115%増加の9,302億円。KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+41%増加の6,124億円。
- ・ 2018年度の売上高は、前年比▲3%減収の9,029億円。KMCを除く従来コマツの売上高は前年比▲4%減収の5,879億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

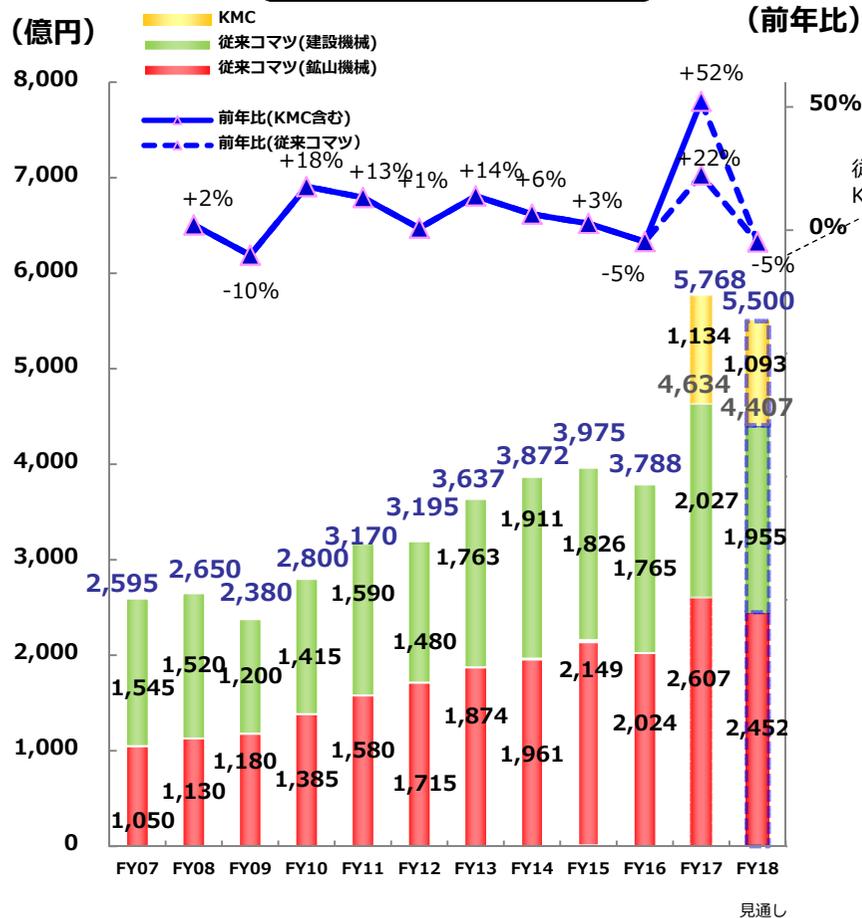


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)

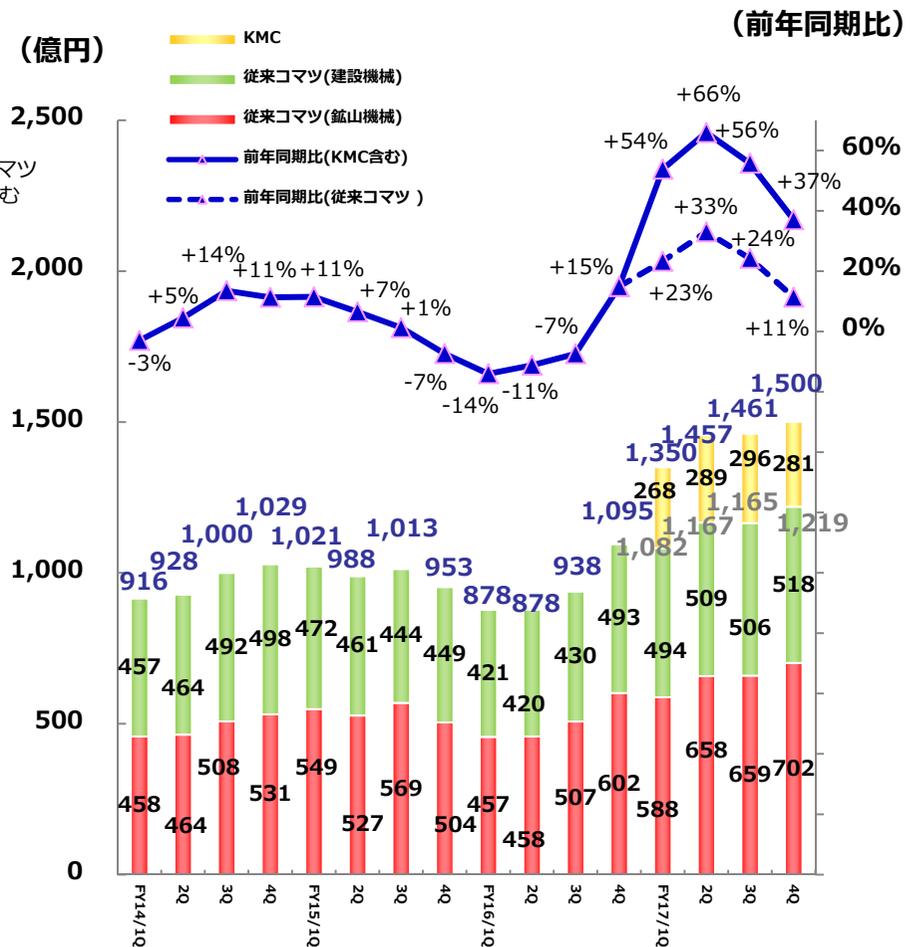


- ・ 2017年度の部品売上高は、前年比+52%増加の5,768億円。KMCを除く従来コマツの売上高では+22%増加の4,634億円。
- ・ 2018年度の売上高は、アフターマーケットの需要を確実に取り込むものの、為替影響で前年比▲5%減の5,500億円。

部品売上高



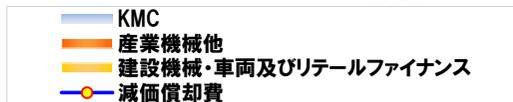
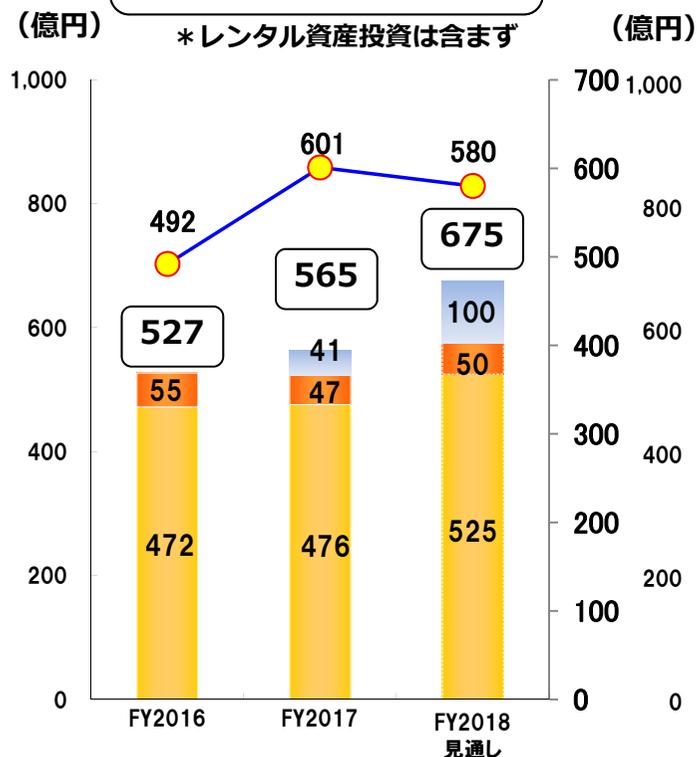
四半期別 部品売上高推移



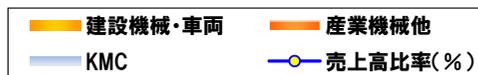
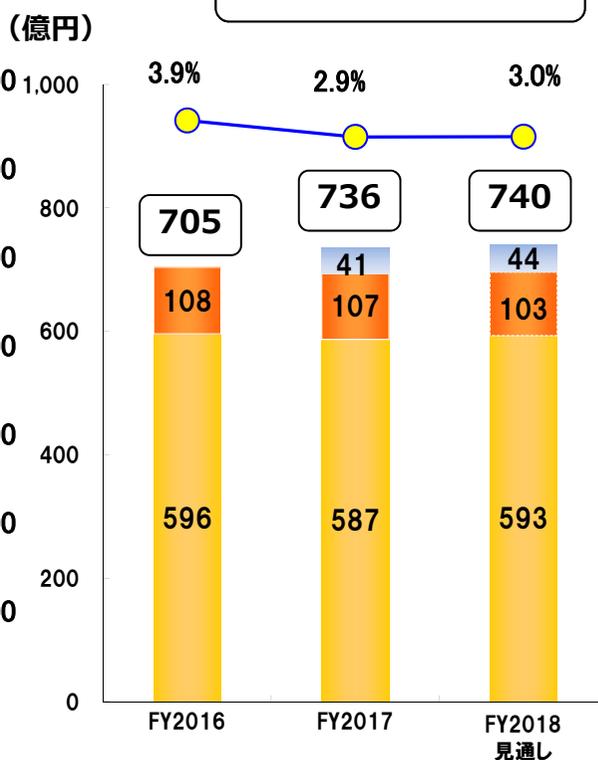
- ・設備投資は、KMCの工場再編投資や、国内工場の労働力不足への対応等を実施。
- ・研究開発費は、キーコンポーネントや分野別・地域別商品開発の他、無人化等のイノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資。
- ・固定費は、KMCなどの新規連結会社の影響およびICTによる業務改革などの先行投資により増加。

生産設備等*の投資
および減価償却費

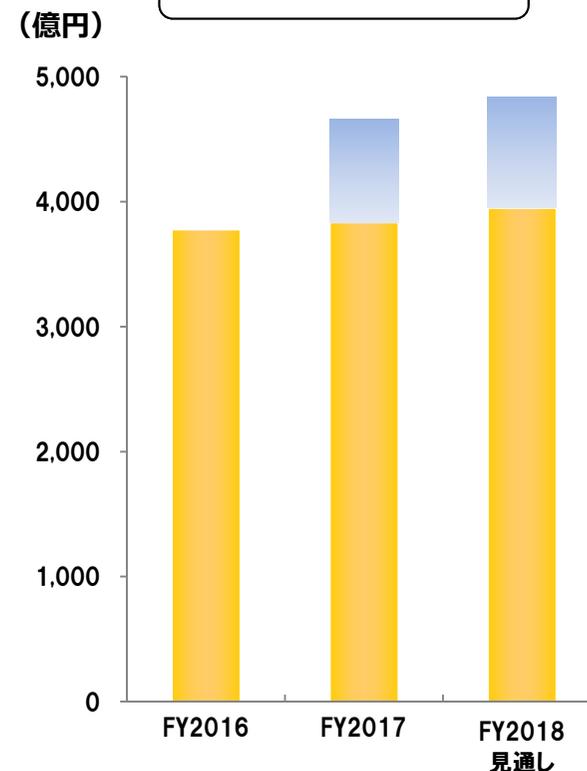
*レンタル資産投資は含まず



研究開発費



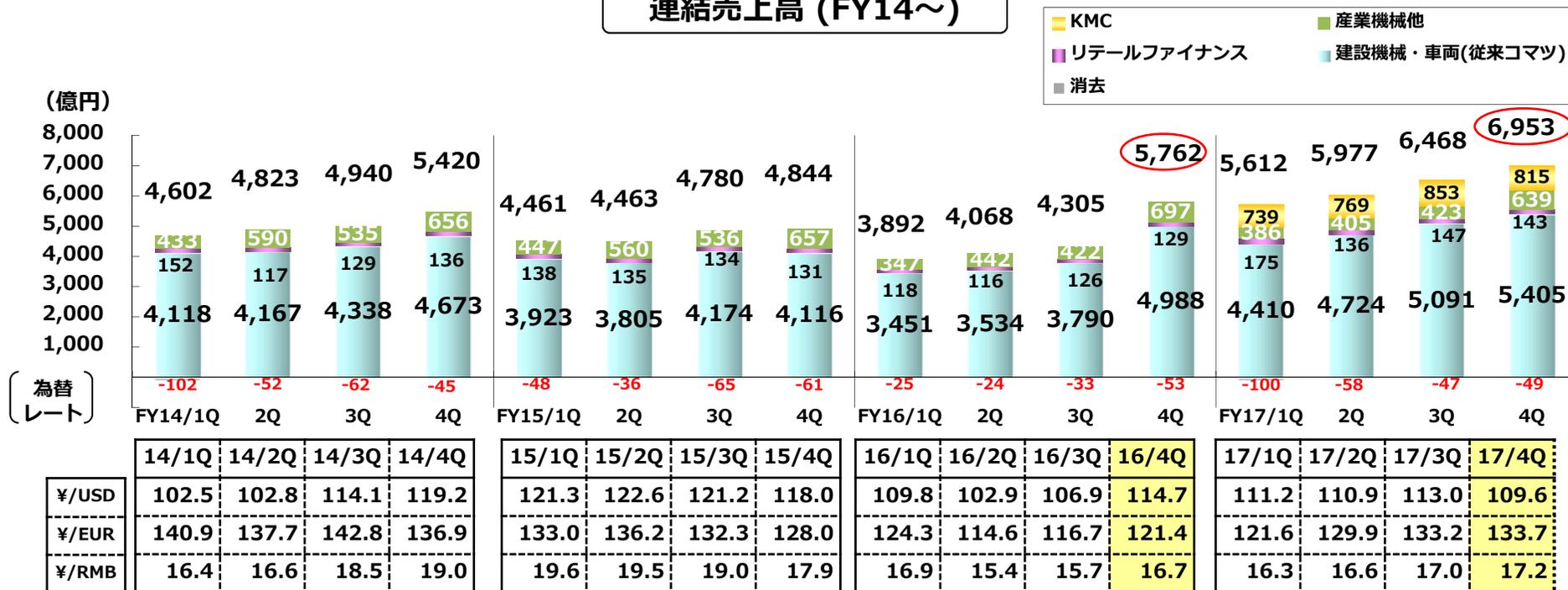
固定費



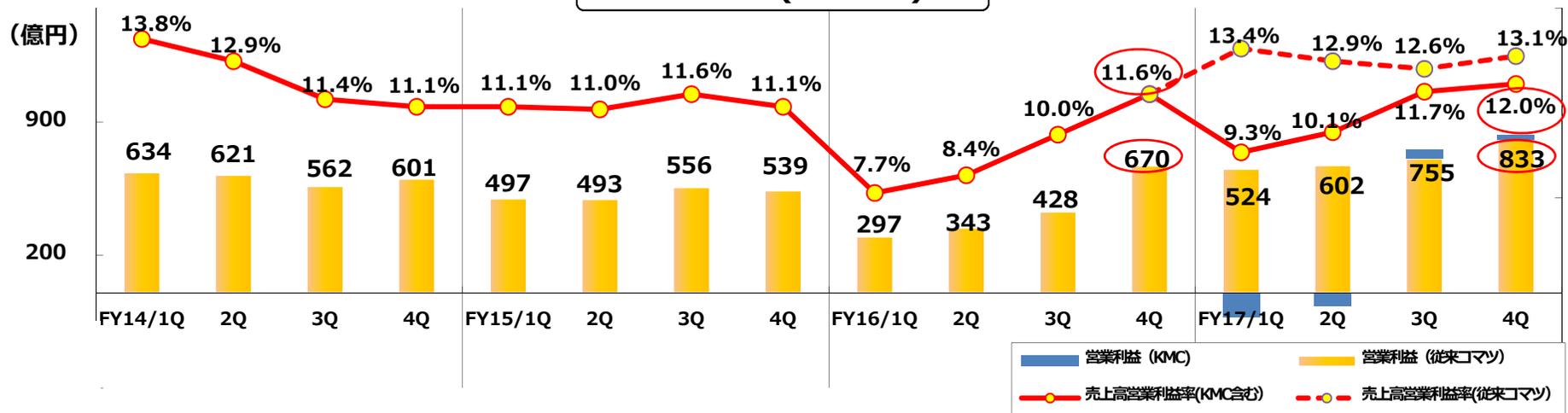
参考資料

【参考資料】 四半期毎の売上高と営業利益の推移

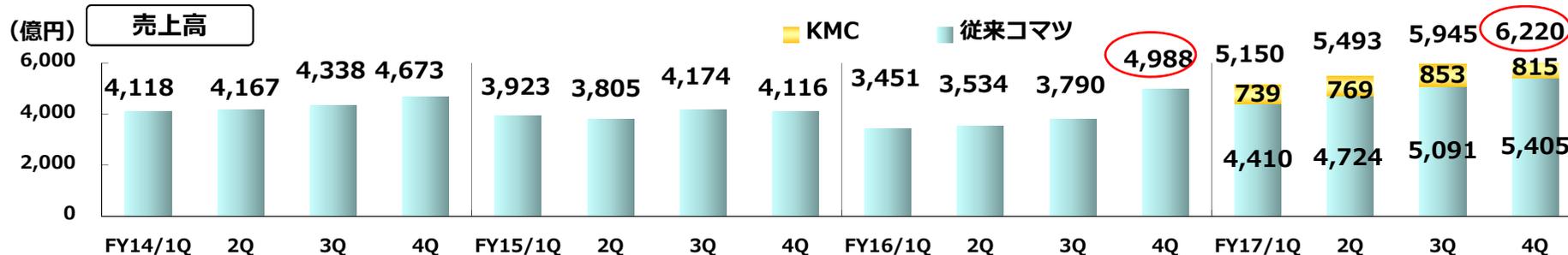
連結売上高 (FY14~)



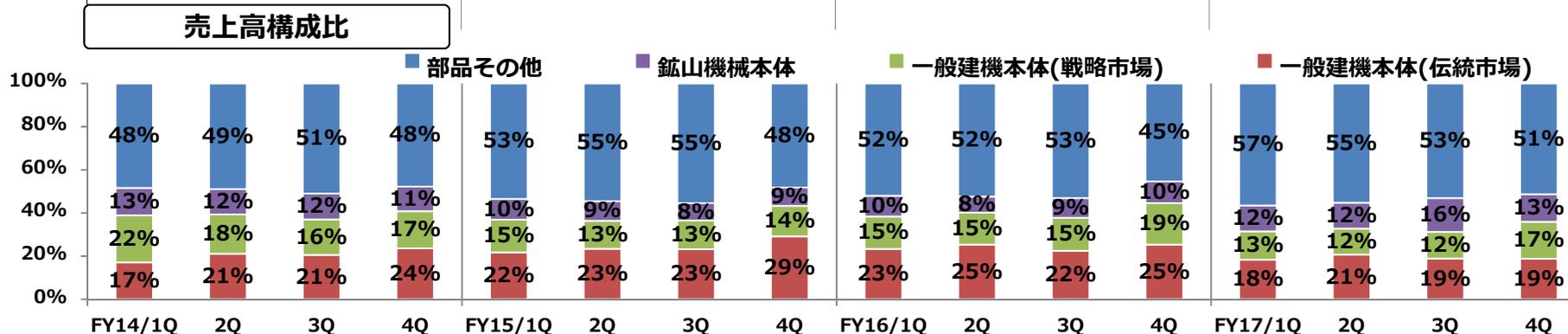
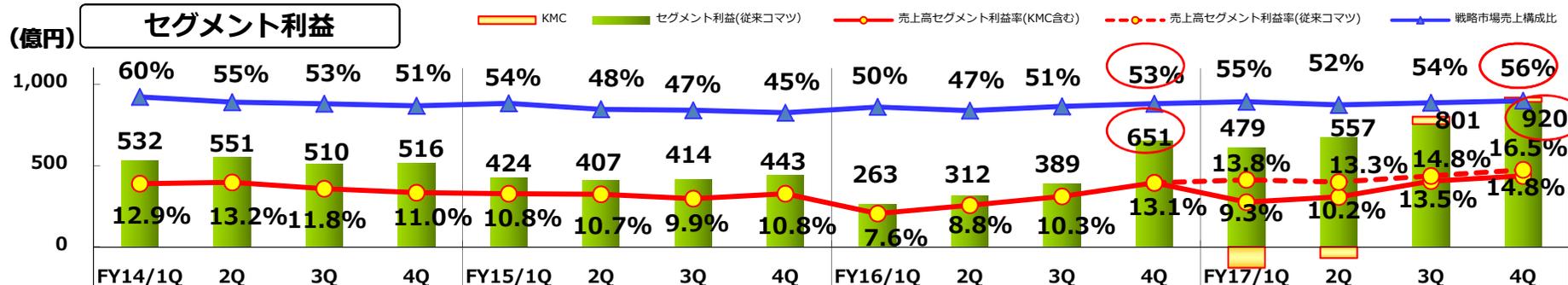
営業利益 (FY14~)



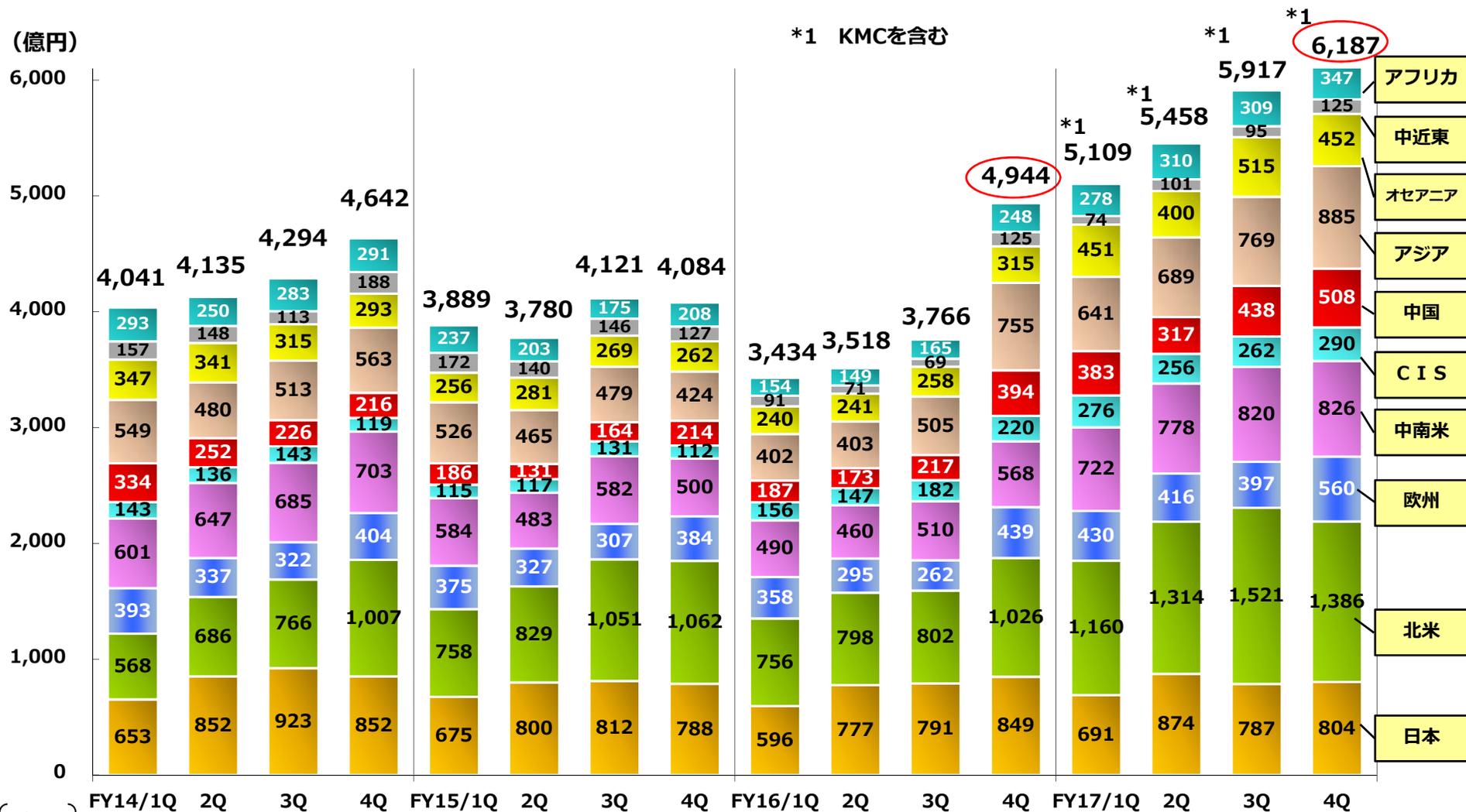
<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2

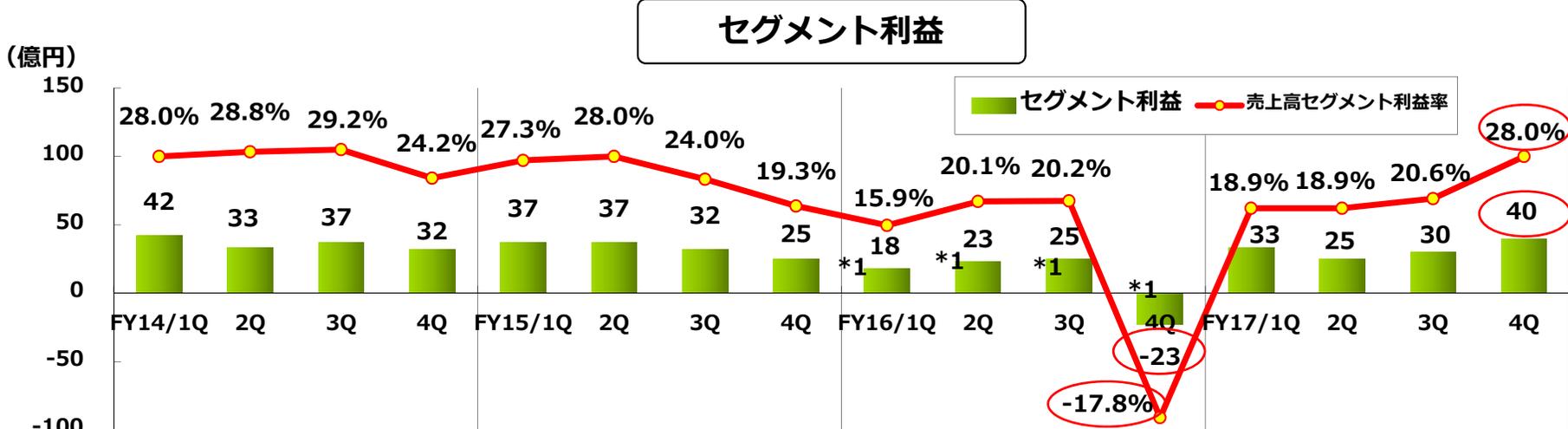
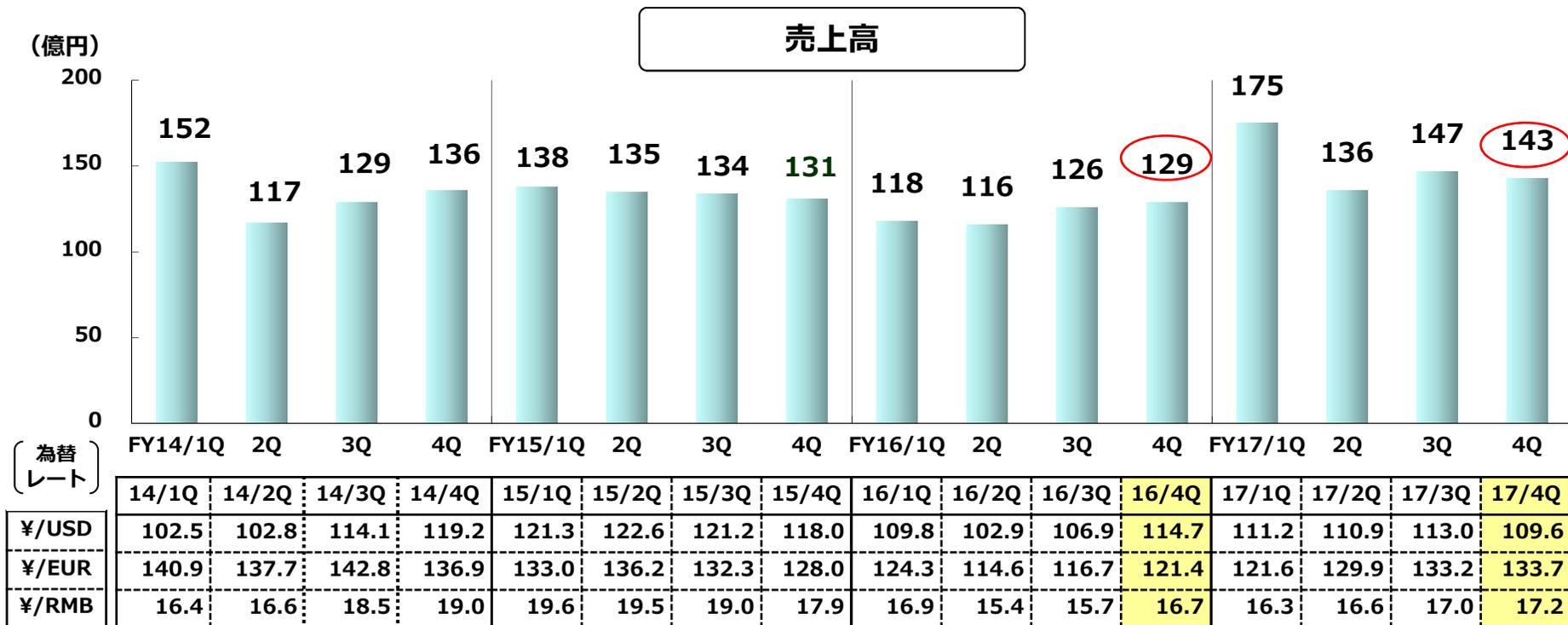


<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）



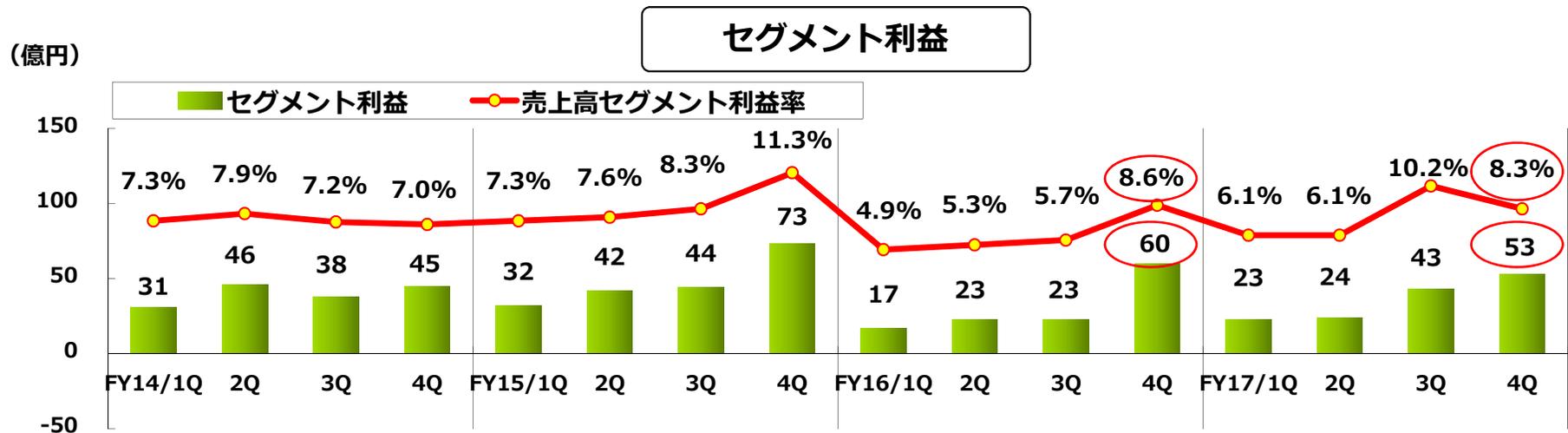
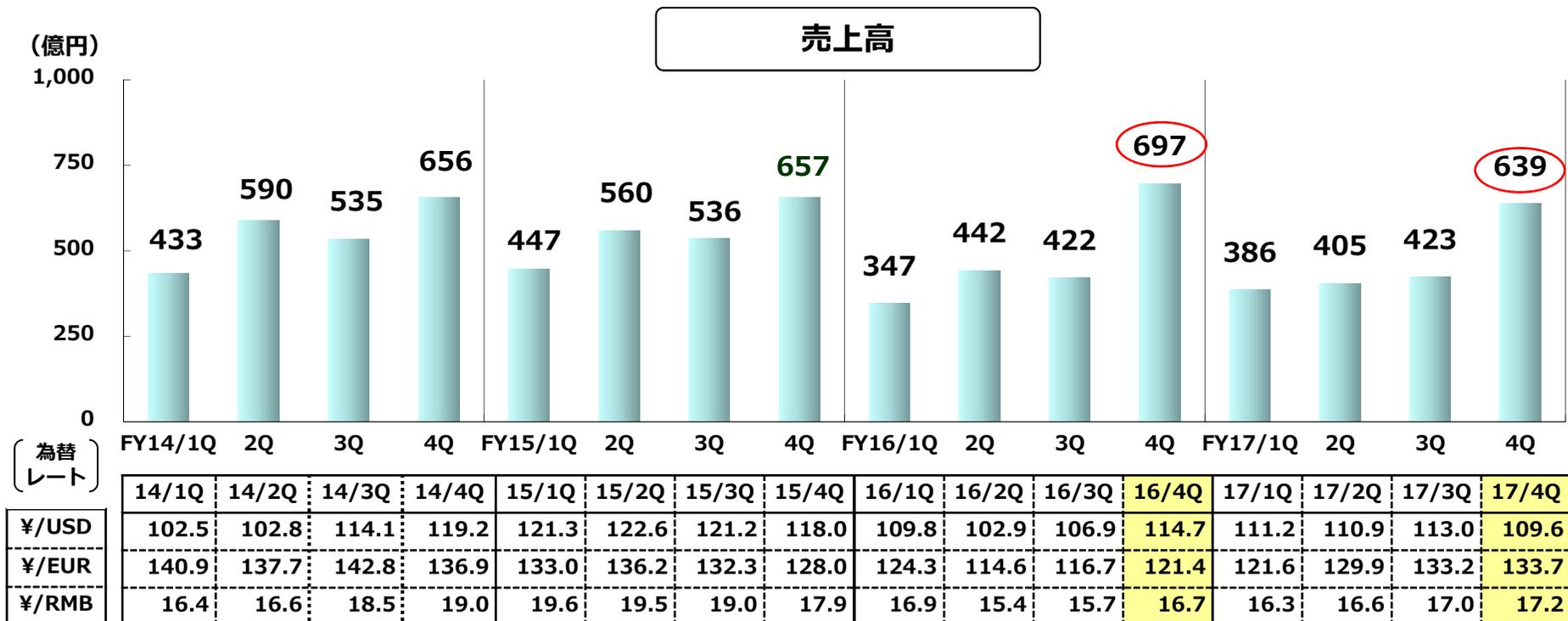
為替
レート

	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2

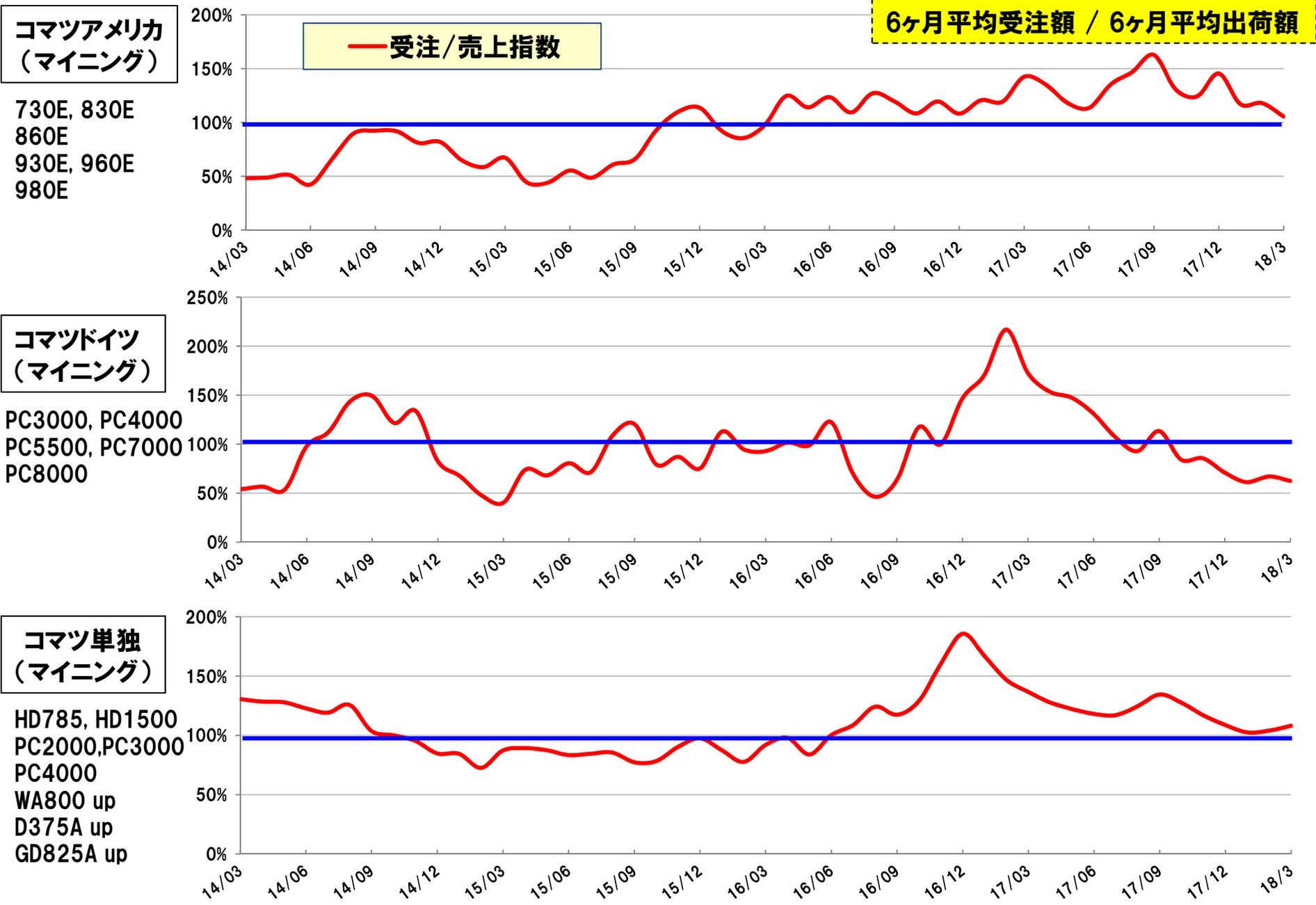


*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)

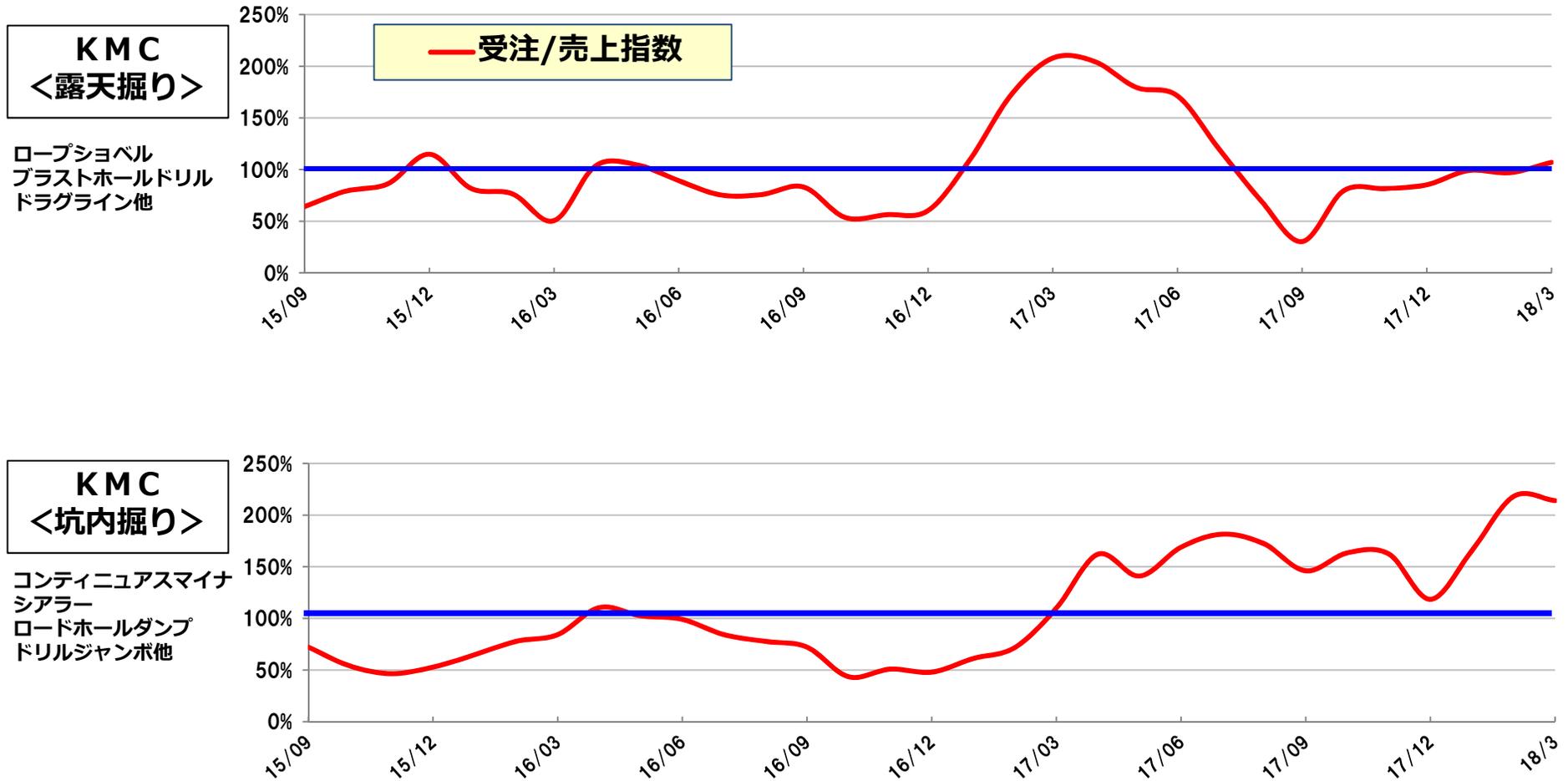
＜産業機械他＞ 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



鉱山機械(本体) 受注/売上指数(6ヶ月)

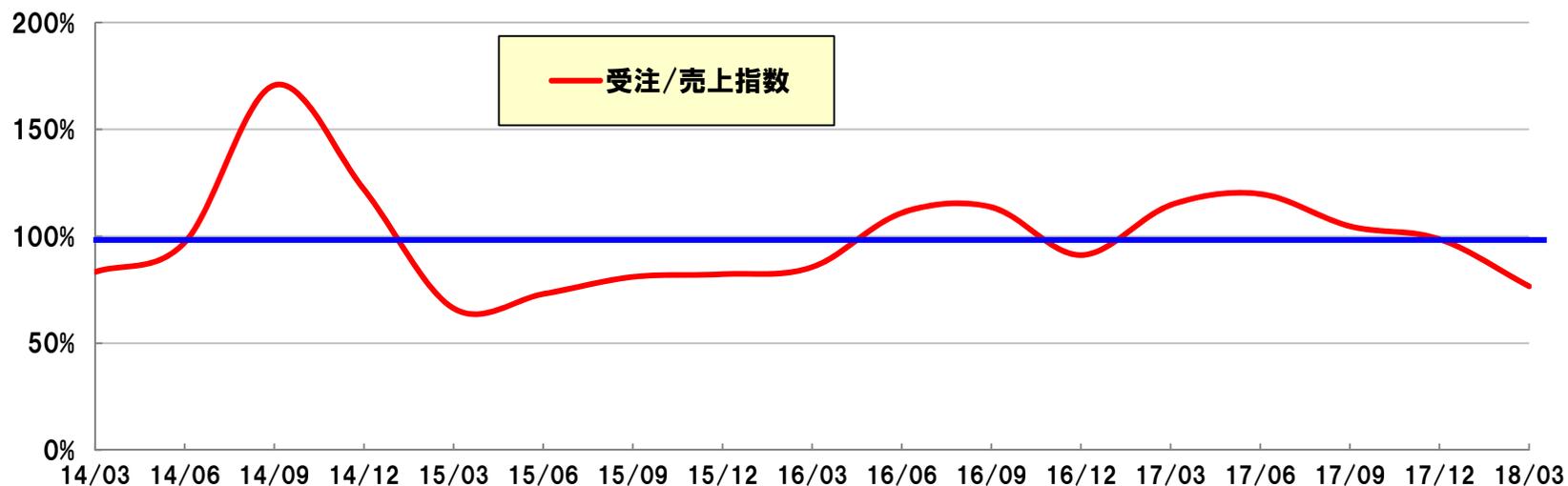


6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額

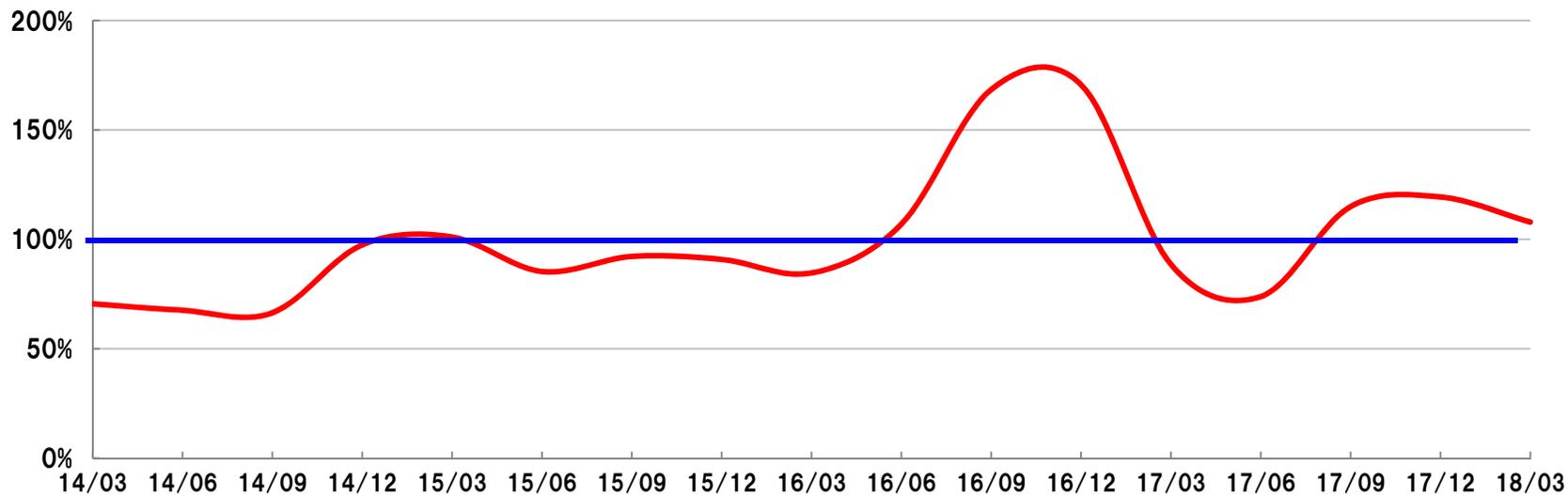


コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



コマツNTC
(除くワイヤーソー)



- ・ 連結売上高は前年同期比+20.7%増収の6,953億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+24.3%増益の833億円。売上高営業利益率は+0.4ポイント改善し、12.0%。
- ・ 純利益は前年同期比▲8.2%減益の413億円。

金額単位：億円	2017年1-3月		2018年1-3月		前年同期比	
	¥114.7/USD ¥121.4/EUR ¥16.7/RMB	¥109.6/USD ¥133.7/EUR ¥17.2/RMB	*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	5,762	6,953	6,137	815	+1,190	+20.7%
セグメント利益	687	1,021	993	*2 27	+333	+48.5%
その他の営業収益(▲費用)	▲16	▲187	▲186	▲1	▲170	-
営業利益	670	833	807	*2 26	+163	+24.3%
売上高営業利益率	11.6%	12.0%	13.1%	3.3%	+0.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲38	▲69			▲30	-
税引前純利益	632	764			+132	+21.0%
純利益*3	450	413			▲37	▲8.2%

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

※ PPA は Purchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

PPAによる償却費 ※	▲35億円
統合費用ほか	▲34億円
合計	▲70億円

2017年度第4四半期（1月－3月）の各セグメント売上高と利益

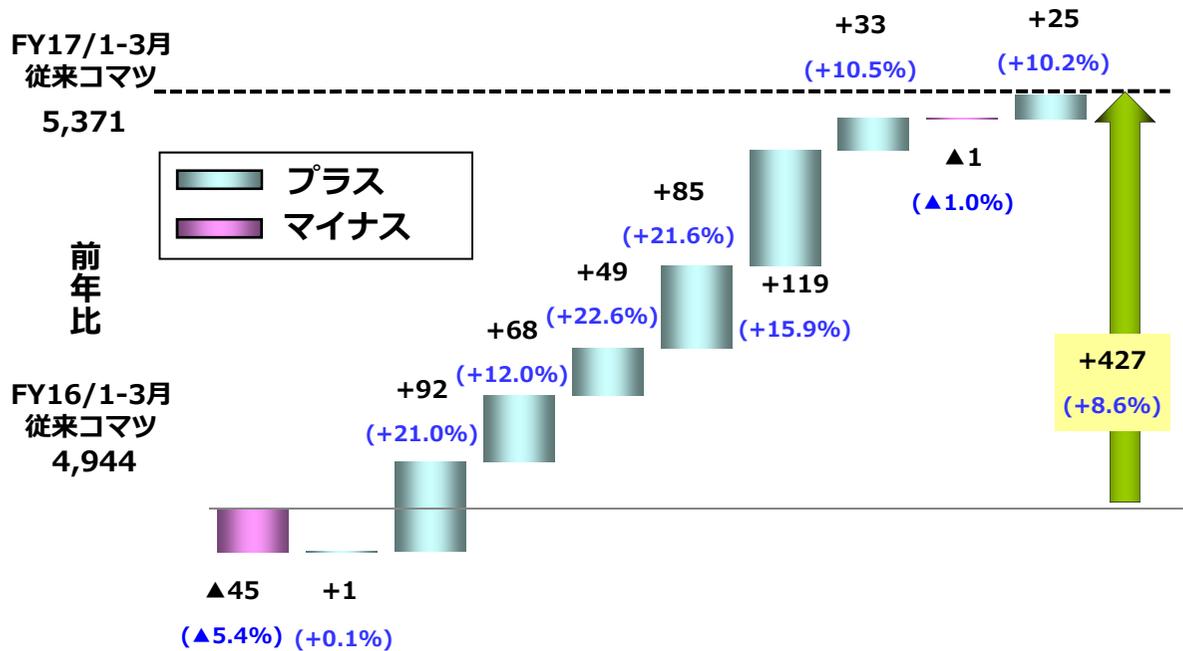
- ・建設機械・車両部門の売上高は+24.7%増収の6,220億円。セグメント利益は+41.3%増益の920億円。セグメント利益率も+1.7ポイント改善し、14.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、+10.4%増収の143億円。セグメント利益は40億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲8.4%減収の639億円。セグメント利益は▲11.6%減益の53億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年1-3月		2018年1-3月		前年同期比	
					増減	増減率
売上高	5,762	6,953	6,137	815	+1,190	+20.7%
建設機械・車両	(4,944) 4,988	(6,187) 6,220	(5,371) 5,405	(815) 815	(+1,242)+1,231	(+25.1%)+24.7%
リテールファイナンス	(123) 129	(128) 143	(128) 143	-	(+4) +13	(+3.8%)+10.4%
産業機械他	(694) 697	(637) 639	(637) 639	-	(▲57) ▲58	(▲8.2%) ▲8.4%
消去	▲53	▲49	▲49	-	+3	-
セグメント利益（▲損失）	□ 11.9% 687	□ 14.7% 1,021	□ 16.2% 993	□ 3.4% 27	+333	+48.5%
建設機械・車両	□ 13.1% 651	□ 14.8% 920	□ 16.5% 892	□ 3.4% 27	+268	+41.3%
リテールファイナンス	▲ 17.8% ▲23	28.0% 40	28.0% 40	-	+63	-
産業機械他	8.6% 60	8.3% 53	8.3% 53	-	▲6	▲11.6%
消去または全社	0	7	7	-	+8	-

＜建設機械・車両＞ 2017年度第4四半期（1月－3月）の地域別売上高(外部顧客向け)

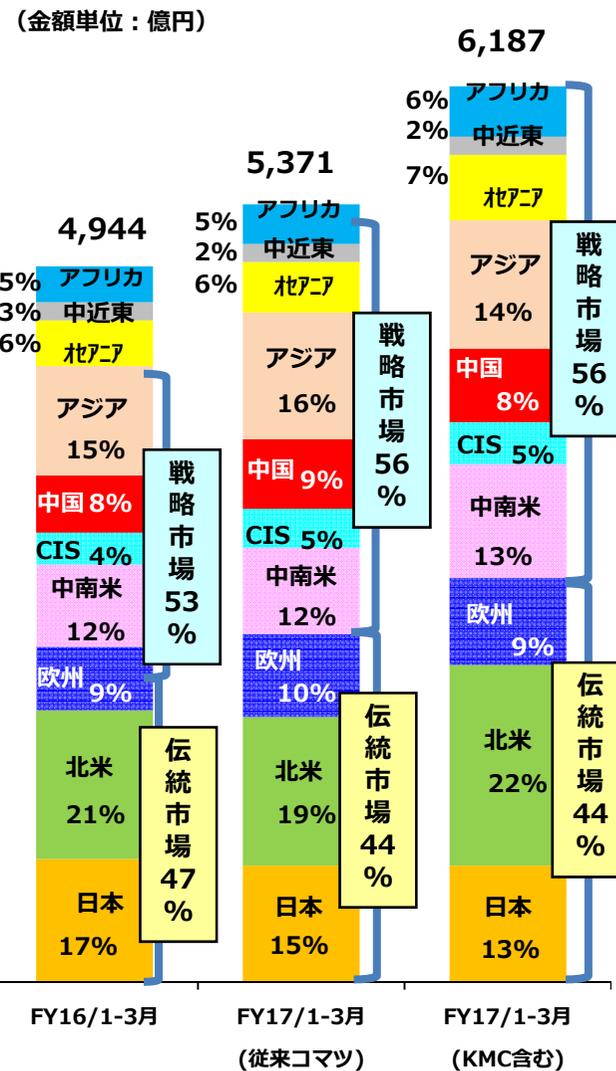
- ・ 外部顧客向け売上高は前年同期比+25.1%増収の6,187億円。
- ・ 欧州・中国・アジアなどの地域で、売上が増加。アジアの増加の影響が大きく、戦略市場の比率が56%に増加。



(億円)	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
FY16/1-3月	849	1,026	439	568	220	394	755	315	125	248	4,944
従来コマツ	804	1,027	531	636	269	480	875	348	124	273	5,371
増減	▲45	+1	+92	+68	+49	+85	+119	+33	▲1	+25	+427
KMC	0	358	29	189	20	28	10	103	0	73	815
FY17/1-3月	804	1,386	560	826	290	508	885	452	125	347	6,187

伝統市場

戦略市場



4月1日、
コマツ建機販売、
コマツレンタル、
コマツリフトは、ひとつになりました。

コマツカスタマーサポート株式会社、
始動。

日本の現場に、
ダントツのサポートを。



- ・国内の販売会社3社（コマツ建機販売株式会社、コマツレンタル株式会社、コマツリフト株式会社）が合併し、2018年4月1日より、コマツカスタマーサポート株式会社が発足しました。

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。